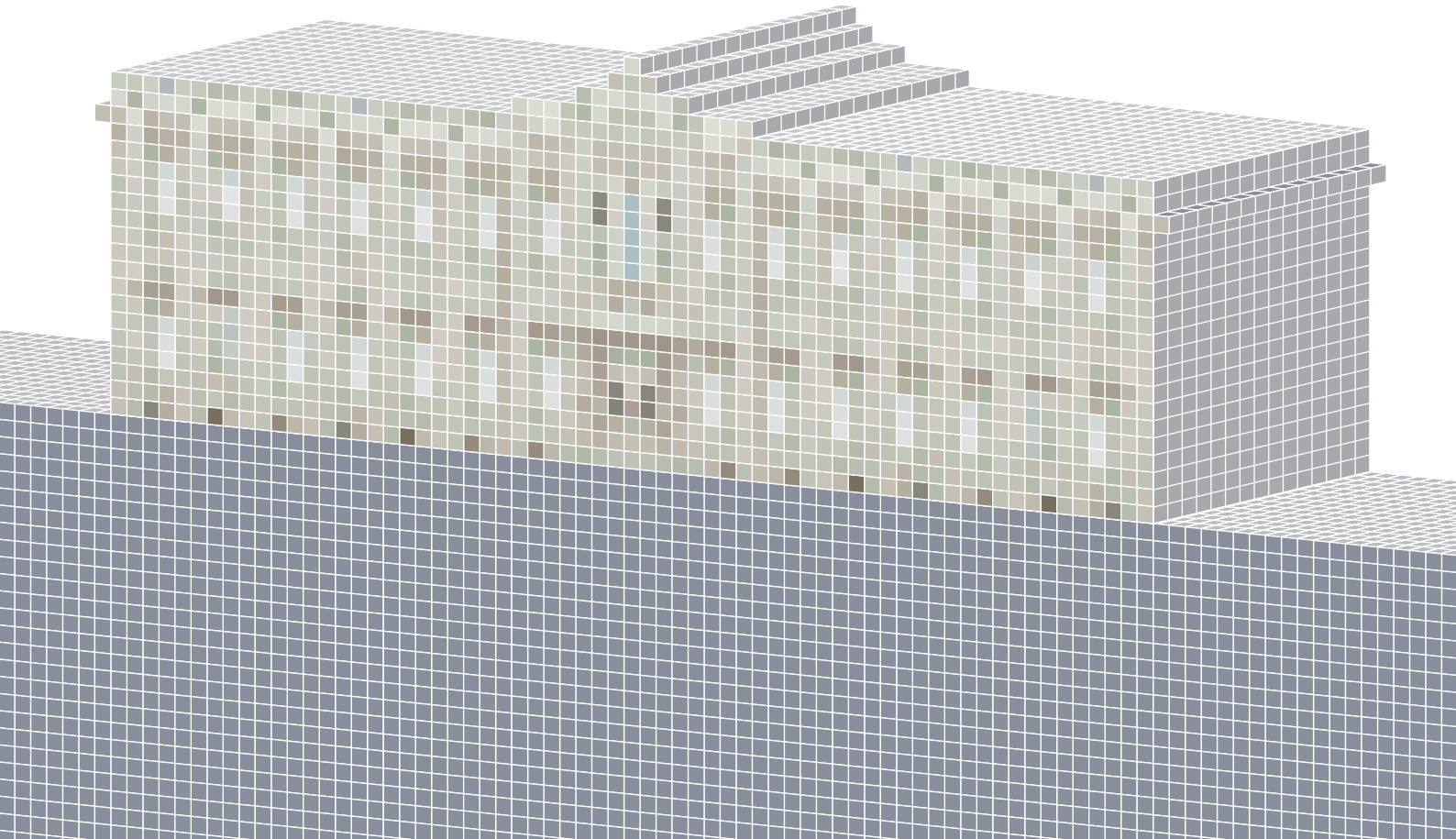
111TH ANNIVERSARY

九州工業大学

大学概要 2020



111 YEARS 2020

Contents

02 学長メッセージ
03 基本理念
04 Kyutech Identity
05 特徴的教育の取組
07 グローバルエンジニアの育成
10 学生プロジェクト
11 先端基幹研究センター等
13 福利施設・海外教育研究拠点・サテライトキャンパス
14 図書館・ミュージアム・記念館
15 キャンパスマップ
17 交通案内
19 沿革
21 組織図
23 役職員名簿
24 職員数
25 学生数
27 外国人留学生在学状況
28 入学者状況・奨学金受給状況
29 進路状況
31 国際交流協定校
33 外部資金・予算・決算

学長メッセージ
Message from the President

活躍し続ける工学系人材の育成と知の創造で未来社会へ貢献

九州工業大学　学長
尾家　祐二
OIE Yuji

九州工業大学は今年、創立 111 周年を迎えました。本学の前身である明治専門学校は、実業家である安川敬一郎氏が巨額の私財を投じて設立されました。開校から110余年もの間、建学の精神である「技術に堪能なる士君子」の養成の実践により６万人以上の工学系人材を世に送り出すとともに、教育および研究力を駆使して、学術の進展につながる知の創造、産業界の競争力強化ならびに地域の発展に貢献してきました。

一方、近年の科学技術の進歩は目覚ましく、多くの発見・発明がなされ、数知れない技術が生み出されています。そして、それらはAIやIoT、自動運転技術などの進展に表されるように加速度的な速さで社会へ普及し、生活に浸透しています。

九州工業大学は、この目まぐるしく変化する社会において、複雑な課題の解決に貢献し続けることができる工学系人材を育成しています。専門的な知識・スキルはもとより、それをグローバルな社会において活用し続けることができるために必要な能力として、①多様な文化の受容②コミュニケーション力③自律的学習力④課題発見・解決力（探究する力）⑤デザイン力（エンジニアリング・デザイン）を取り上げ、その涵養に注力しています。そして、そのための多様な学習プログラムの提供と学習環境の整備を行っています。2014年度から推進している海外派遣プログラムには、産業界との良好な関係をもとにした海外企業でのインターンシップも含め1年間に700名を超える学生が参加しています（2019年度）。海外渡航を経験した学生は、帰国後、学びに対する考え方や行動までもが変わり、大きく成長していきます。

大学は未来を切り拓くための知の創造の場でもあります。知の創造としての研究活動には、学術の発展のための研究と社会の発展のための研究という側面があります。本学では、宇宙、環境エネルギー、AI、IoT、ロボット、データサイエンス、LSIなどの分野で世界的な研究拠点の形成や自立性・持続性のある研究体制の確立を目指す11の研究センターと、分野融合による新領域を形成し革新的な研究活動を実践する４つの戦略的研究ユニットを設置し、また、海外の大学とマッチングファンドによる国際研究連携を締結するなど、先導的な研究活動を推進しています。さらに、大学内において長期にわたり企業の研究者と共同で研究を実施することができる制度を設け、現在、７つの共同研究講座と３つの共同研究部門が開設されています（2020年４月現在）。

九州工業大学は、教育研究の多様な活動を学外の皆様にご理解して頂くために様々な情報発信、対話および協働の機会を設け、学内外、国内外の信頼のネットワークを築き、教育研究の内容をさらに充実させます。また、本年は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大により本学も様々な影響を受けていますが、この状況下においても在学生、職員および関係するすべての皆様の安全を確保したうえ、遠隔授業をはじめするICTを活用した取り組みなど必要な措置を講じることで、大学の機能である教育、研究およびそれに基づく社会貢献に関し、良質な活動を実施し続けます。そして、110余年の歴史を礎にこれからの未来社会に向かって、学びのため、知的創造を行うために、これまでと同様、高校生や企業、地域の方々との繋がりを大切にした開かれたキャンパスの実現を目指していきます。

基本理念

九州工業大学は、わが国の産業発展のため、
品格と創造性を有する人材を育成します。

基本方針

教 育

開学以来の教育理念を基本とし、志(こころざし)と情熱を持ち産業を切り拓く技術者・知的創造者を養成するため、質の高い教育を行います。

研 究

研究活動を常に活性化し、科学に裏付けられた融合技術や境界領域の創成を行うなどにより多くの優れた研究成果を創出します。

社会との連携

教育・研究で培った知の公開と価値創造ともの創りを推進し、技術革新と社会を支えるイノベーションにつなげ、地域社会との連携と調和に努めます。

運 営

社会に対する大学の責任を重視し、大学に係るステークホルダーに対する説明責任を果たせる経営を行います。

教育目標

工学部
大学院工学府

戸畑キャンパス

「ものづくり」の基本を備えた技術者の養成

「ものづくり」を基盤とした工学系分野において、豊かな教養、技術者倫理及びコミュニケーション力を備え、科学技術の進歩に対応できる工学基礎力・専門技術力を有し、国際的に活躍できる専門技術者の養成を目標としています。

◎博士前期課程では、工学部の素養と能力に加え、深い専門知識とそれに基づく課題発見・設定・解決能力、並びに多様な文化の理解に基づく国際的コミュニケーション力を有する人材の養成を目標としています。

◎博士後期課程では、博士前期課程の素養と能力に加え、複数分野の深い専門知識を有し、異分野を融合してイノベーションを創出でき、国際協働プロジェクトにおいてリーダーシップを発揮できる人材の養成を目標としています。

情報工学部
大学院情報工学府

飯塚キャンパス

情報を基盤に国際的視野を持つ高度技術者の養成

情報を基軸とする科学技術分野において、高度な専門技術を身につけて情報化社会をリードし、国際的に通用する能力に加え、科学技術の進歩に対応できる基礎技術力を有し、先端的な技術開発を推進できる専門技術者の養成を目標としています。

◎博士前期課程では、情報科学・工学の知識を基礎とし、問題を発見し解決する能力及び論理的なコミュニケーション能力を身につけた上で、各専門分野で活躍できる能力を有する人材の養成を目標としています。

◎博士後期課程では、博士前期課程の素養と能力に加え、実践的な研究開発の経験に基づき、深い専門知識と高い志をもって自立して活躍できる能力を有する人材の養成を目標としています。

大学院生命体工学研究科

若松キャンパス

生体の優れた機能を工学的に実現する高度技術者の養成

分野横断的な広い視野で工学の知識と技術を応用することにより、社会的課題を解決するイノベーションを創出し、グローバル社会で実践的に活躍できる高度技術者の養成を目標としています。

◎博士前期課程では、現代社会のニーズである省資源、省エネルギー及び環境調和のための工学技術、並びに人間や社会を支える知能ロボット、知的情報システム、福祉システムなどを実現するため、生物や人間の持つ機能・原理・構造を解明し、それらを工学的に実現・応用することを通じ、人々と連携して新しい社会の創造に貢献できる能力を持つ人材の養成を目標としています。

◎博士後期課程では、博士前期課程において習得する専門知識に加え、研究・技術分野の動向を常に注視し、革新的成果の実現を図る能力を有する人材の養成を目標としています。

Our Vision and Mission

「技術に堪能なる士君子」の養成を目指して

本学の前身である明治専門学校は、教育のために私財を投じた実業家安川敬一郎氏の崇高な志と、それに賛同した山川健次郎先生の多大なる尽力によって、創建されました。
その理念は「技術に堪能なる士君子」、すなわち技術に精通すると共に、道義心のある人格者を養成すること。単に学問・技術を授けるのではなく、人間形成に重点を置いた教育を志しました。そのため、一般教養の習得と精神面の練磨を目的とした4年制・全寮制にこだわりました。
この理念こそが、開学以来110余年に渡り、我が国の産業の発展に貢献する優れた技術者を輩出し続け、今日の九州工業大学を支えているのです。

九州工業大学の生みの親
安川 敬一郎氏
1849~1934年

九州工業大学の育ての親
山川 健次郎氏
1854~1931年

History

Kyutech Identity

111周年記念シンボルマーク

111th Anniversary

国立大学法人
九州工業大学

ひとつずつ着実に積み重ね上げるようにして築かれてきた九工大の111年に及ぶ歴史をブロックを用い現代的に表しています。

Kyutech Identity

タグライン

Tag line

未来を思考する「モノづくり」と「ひとづくり」

タグラインとは、『九州工業大学として、常に変わらずステークホルダーに提供するコアとなる価値を言葉にしたもの』で、九州工業大学の社会に対する約束を言葉で表現したものです。
「技術に堪能なる士君子」の養成。大学のDNAとして受け継がれる安川、山川両先生のメッセージである建学の理念を現代の言葉として紐解き、世の中に約束する九州工業大学のタグラインとしました。

Kyutech Identity

校章

Emblem

校章は校旗をもとに作成されました

校　章

校　旗

校旗はひろく職員、学生、卒業生の間から図案を募集し、1924年(大正13年)機械科卒業生中山武夫氏の作品が選定されました。
校旗は鳳龍の旗と称され、その意義は明治専門学校の精神を具体化させるものです。校旗制定記念絵葉書によると、「地彩の紅、黝(重いネズミ色を現す)は、鋼鉄及び鋳鉄の堅実に擬え、又工業の象徴たり。中央の形体は、龍に似て龍に非ず、鳳に似て鳳に非ず、正に之を超越せる霊体なり。眼より耳を通じて拡がる翼は、卓越せる聰明と無量の知識とを現はし、巨口に珠を含むは、光明円満の徳を以て、高く世に呼号せんとするものにして、本校の活動を意味す。」とされています。

Kyutech Identity

特徴的教育の取組

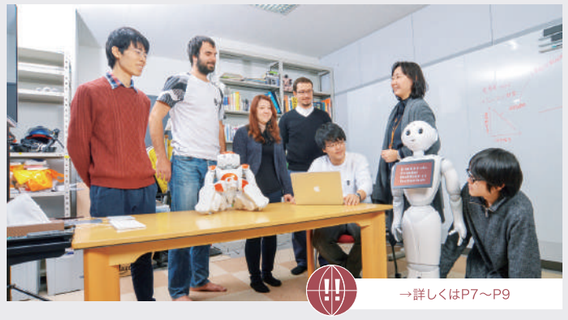
Kyutech Education

九州工業大学では、「技術に堪能なる士君子」の養成という理念のもと、これまで世界中で活躍する技術者（エンジニア）を輩出してきました。産業界では、幅広い知識と専門性に加え、グローバル化が加速する社会に対応するスキル、課題解決能力、コミュニケーション力などを備えた技術者が求められています。九州工業大学には、グローバルエンジニアとして「世界を舞台に活躍し続けるスキル」を修得できるようデザインされた教育システムがあります。

01 Education

社会と協働する教育研究のインタラクティブ化加速パッケージ ～技術者のグローバル・コンピテンシー獲得へ～

社会が求める技術者のグローバル・コンピテンシー（GCE）の策定・可視化及び国際通用性のある人材養成のための教育プログラムを構築し、アクティブ・ラーニング、グローバル化対応教育を強化します。重点的な教員配置により環境関連工学などの強みをいかした大学院改組の実施とともにガバナンス改革に取り組み、海外教育研究拠点の強化などによる共同研究・協働教育のグローバル化を加速します。



→詳しくはP7～P9

02 Education

国際連合と連携した衛星開発能力構築のための 宇宙工学国際コース

宇宙工学国際コースの目的は、九州工業大学の世界的にもユニークな宇宙工学関連教育・研究資源を活用し、日本人学生のみならず世界中から優秀な人材を獲得して、豊かな異文化コミュニケーション能力と幅広いシステム工学的思考力をもったグローバル技術者を世界に輩出することにあります。宇宙工学国際コースは、以下の４項目から成り立っています。

- 指導教員の元での修士論文または博士論文に関する研究
- 宇宙環境試験などの実践を通じたOn-the-Job Training
- 留学生・日本人の共同作業で宇宙プロジェクトを行なう Project Based Learning
- 英語による体系立った宇宙工学関連の講義

03 Education

需要創発コースの設置とその学習環境としての工房創出事業

学生が研究者・技術者として活躍する場はグローバル化し、多様化しています。その中で、本学の卒業生はニーズを作り出すイノベーターたること、加えて、リーダーとしてプロジェクトや企業を率いなければなりません。ここに至り、従来の高度な技術シーズの修得に加えて、ニーズを迅速に掴み、その解決策を提案できる能力も学修する必要が生じました。そこで、従来の専門性の高い講義に加えて、チームで演習を行うことができるコース（需要創発コース）とその活動の場（需要創発工房）を設定しました。本コースでは、企業や大学などにクライアントとして、実際に問題となる課題を提案してもらいます。学生は、教員をメンターとしたチームを組み、1年半の活動の中で、示された課題が含むニーズを抽出し、そのニーズの解決方法を提案し、具体的にプロトタイプを作成します。毎年、50名前後の学生が本コースを選択し、開発デスバレーの苦しみを乗り越え、成果物を生みだし、公開の最終プレゼンテーションで評価を受けます。

04 Education

カーロボAI連携大学院

北九州学術研究都市にキャンパスを構える九州工業大学、北九州市立大学、早稲田大学は、国公私の連携により北九州市および公益財団法人北九州産業学術推進機構（FAIS）の支援を受けて、自動車の基本技術を学ぶ『カーエレクトロニクスコース（カーエレコース）』と、自動車・ロボットの知能化技術を実習主体で学ぶ『インテリジェントカー・ロボティクスコース（カーロボコース）』を開設しています。両コースでは、産業界のニーズに応えて、自動車とロボットの分野で次世代を担うリーダーとしての高度専門人材を育成します。2017年度からはカーロボコースに、人工知能を重点的に学ぶ『AIサブコース』も設置しました。さらに2019年度より、カーエレ、カーロボ両コースおよびAIサブコースを統合・再編して、『カーロボAI連携大学院』をスタートさせました。

↑自動運転車制御 総合実習の様子

ホームサービスロボット 製作総合実習の様子 →

05 Education

先進的支援ロボット工学の国際展開を担う 人材育成プログラム

産業や医療福祉のさまざまな問題を解決するための先進的支援ロボット技術（AAR）を、留学生と日本人学生が共同で学習・研究します。留学生と日本人学生が、言葉の壁を乗り越えながら共に学び、国際化・海外拠点化を目指す企業にAARに関するグローバルエンジニアを輩出することを目指しています。

双腕ロボットの生活機能介助への応用 →

グローバルエンジニアの育成

Global Competency for Engineer

GCE

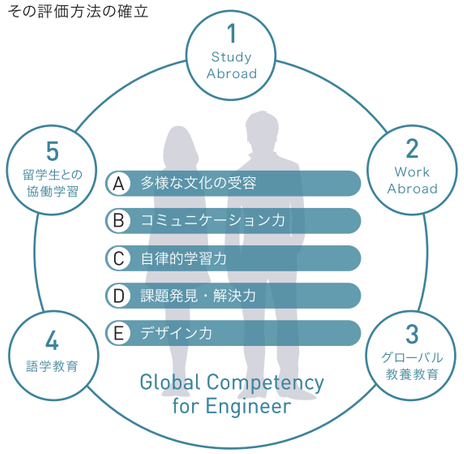
九州工業大学では、グローバル化した社会で活躍する技術者（グローバルエンジニア）に必要な能力（要素）をGCEと定めて、それらを育成するための様々な取り組みを実施しています。

技術者は、グローバル化した社会の中で、自らが持つ知識とスキルを持続的に成長させる姿勢を持ち、様々な文脈において、それらを活用して、変化し続ける高度で複雑な課題の解決に取り組む姿勢を持ち続けることが期待されます。そのような行動特性としてのグローバル・コンピテンシー（GCE：Global Competency for Engineer）を有した技術者（グローバルエンジニア）を養成する教育パッケージを開発・推進しています。そのために、卒業時、修了時における人材像をGCEの視点で明示し、その育成のために多様な学習機会の促進と学習環境の整備を行うなど、多面的、統合的な取り組みを組織的に実施しています。

3つのCの取り組み

01 Competency

GCE の要素および目標とする達成レベルの設定およびその評価方法の確立



02 Circuit Program

GCE を獲得するための教育プログラム (Circuit Program) の開発及びそれらを効果的に実施するための制度設計

教育プログラム及び教育制度を整備

- 6 年一貫教育・クォーター制の導入
- 海外派遣プログラムの拡充
- 事前・事後学習のプログラム化

03 Learning Complex

GCE 教育・学習を効果的に行うための複合的学習環境の整備

Campus on X	複合的学習環境・多様な学習の創出	X on Campus
海外教育研究拠点		学習教育拠点
● マレーシア（MSSC） ● タイ（サテライトオフィス） ● その他計画中	● アクティブ・ラーニング型教室、工房 ● 海外拠点 ● 混住寮、滞在施設など	●未来型インタラクティブ教育棟 ●インタラクティブ学習棟（MILAiS） ●デザイン工房 ●ランゲッジラウンジ ●グローバルコミュニケーションラウンジなど

01 Competency GCEの定義と評価方法

グローバルに活躍する技術者に求められるコンピテンシー（GCE）の要素を、

A	B	C	D	E
多様な文化の受容	コミュニケーション力	自律的学習力	課題発見・解決力（探究する力）	デザイン力（エンジニアリング・デザイン）

と定義づけ、これらの能力を身に付けたことを評価し、可視化する方法について、ルーブリックの策定やシステムの開発検討を進めています。

5つの各要素の効果的な学習（獲得）のため、教養科目や語学の教育改革成果を基礎に、

1. 海外学習体験（Study Abroad）
2. 海外就業体験（Work Abroad）
3. グローバル教養教育
4. 語学教育
5. 留学生との協働学習

を5つの柱として、GCE 教育を実施します。

GCE

02 Circuit Program 教育プログラムの開発と制度設計

学生が、GCE を獲得するために、様々な教育プログラムを提供します。海外派遣プログラムでは、まず、学習目標を設定し、参加する学生に対して留学に対する意識・目的を明確にします。派遣前の事前教育により、海外生活に対する心構えに加え、海外での学習に向けた準備教育を実施します。派遣後は、向上した学習意欲をフォローアップするための講義、振り返り学習や成果報告会を実施し、最終的に、プログラム全体を通した到達度の評価を行います。このように、派遣前から事後評価までを一連のパッケージととらえ、効果的な海外派遣を実践します。学生は、サーキット・トレーニングのように、いくつかのプログラムを経験し、継続的な学習を積み重ねることで、より高度な GCE を獲得することが期待されています。

First Step Program

SDGsスタディツアー

本学では、学部入学後の早い段階でのグローバル学習経験が重要であると考え、低学年を対象とした海外派遣プログラムを 2013 年度から実施しています。工学部・情報工学部の両学生を対象とした全学的なプログラムとして、多文化の受容・協働学習をキーワードとしたグループ学習やバディ・プログラムを実施しています。

事前学習
- グループワーク
- 英会話セミナー

国連ハビタットでの研修 ▶ ユネスコでの研修 ▶ 日本学術振興会（JSPS）バンコク研究連絡センターでの研修 ▶ JICA タイ事務所での研修 ▶ タイ国内の史跡見学（世界遺産アユタヤ） ▶ 工場見学

事後学習
- フォローアップ研修
- 成果報告会

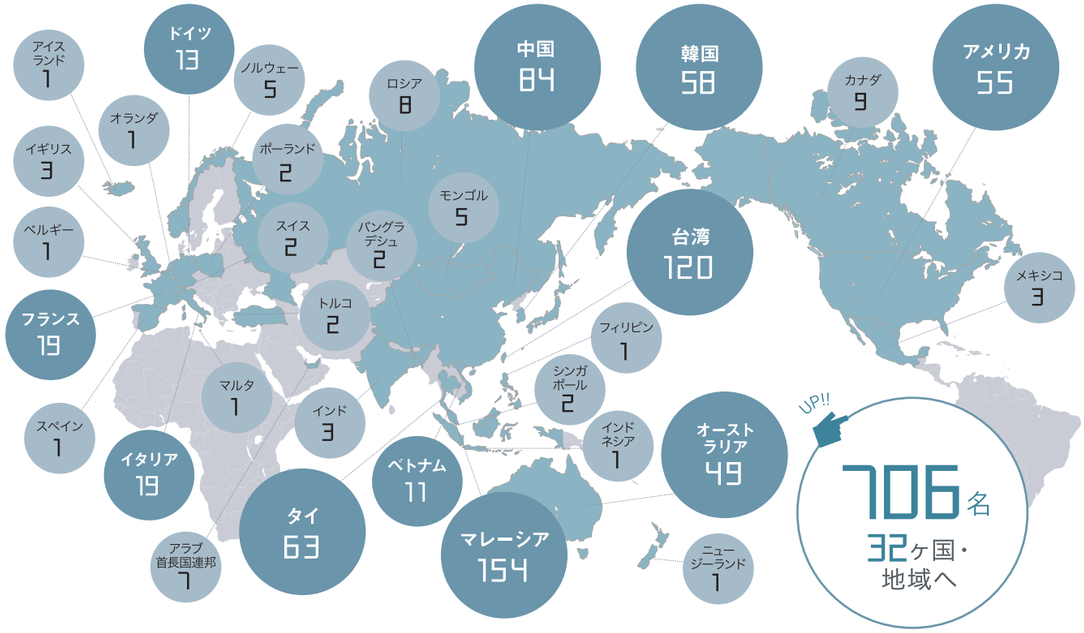
海外派遣プログラム

事前学習

STEP 1	STEP 2	STEP 3	STEP 4	STEP 5	STEP 6
初回指導（自己認識）	事前講義	安全指導	海外派遣 GO ABROAD!!	事後学習	成果報告
異文化適応度を測るセルフチェックの簡単なテストを実施し、その結果に基づいて自己分析を行い、レポートを提出し自己認識を深めます。	留学に対する意欲を高めるために、グローバル教養の講義や留学生との協働学習などの複数のプログラムを設け、学生が自由に選択して受講することができます。	海外での危機管理を中心に、安全に海外留学を実現させるための心構え、派遣国や派遣機関に関する情報収集の方法など、ケーススタディを交えて、講習会を実施します。		留学により高まった学習意欲を帰国後も持続させることを目的として、フォローアップ講義を開講します。	留学の成果を振り返り、さらなるステップアップをはかります。 また、成果報告会を実施し、海外留学の成果を広めます。

GCE

海外派遣学生数（2019年度）



「日本人学生の留学比率」が国立大学5位

（「THE世界大学ランキング日本版2020」の公開データをもとに本学において集計）

グローバルエンジニアの育成 Global Competency for Engineer

03 Learning Complex 複合的学習環境の整備

学生が主体的に学ぶ意識を醸成し、GCE 教育を効果的に実施するための多様な学習環境（複合的学習環境）を整備しています。キャンパスの中に学習環境を整備する（X on Campus）とともに、学外にも学びの場としての「キャンパス」を整備し（Campus on X）、様々な形態の学習を支援します。

X on Campus

アクティブ・ラーニング型講義室や、エンジニアリング・デザイン実践のためのデザイン工房、国際交流スペースとしてのラウンジや、自律的学習空間のためのコモンズを各キャンパスに整備しています。

●戸畑キャンパス●飯塚キャンパス●若松キャンパス

●●MILAiS（ミライズ）

机を自由に組み合わせてレイアウトでき、固定的な教壇（教卓）を設けず、講義室の前方・後方をあえて示していないなど、グループワークを取り入れた講義を実施できるようデザインされています。多画面対応のプロジェクター投影設備などの ICT 機器も効果的に配置されています。

GCE要素
コミュニケーション力・自律的学習力

●プロジェクトラボラトリ

課題解決型の授業を実施するために開発された講義室です。PBL（Project-Based Learning）教育をより効果的なものにするために、人間工学的観点に立って、デザインされました。様々なカタチのカラフルな椅子や机が木のフローリングの上に置かれ、これらは自由に移動させることができます。ここでは、靴を脱いで木のぬくもりを感じながら過ごし、リラックスしてディスカッションを行うことができます。

GCE要素
課題発見/解決力・
コミュニケーション力・自律的学習力

●●デザイン工房

学生一人ひとりが思い描く「こんなものを作りたい」というアイデア。それを形あるものとして創ってみて、創ったものを試してみて、さらに次のアイデアにつなげます。デザイン工房は、3D プリンターやグループワーク用の機材を取り揃えた、みなさんの「創造」の場です。

GCE要素
デザイン力・自律的学習力・
課題発見／解決力

●●ラーニングコモンズ

グループで相談をしながら学習することができるスペースです。空間を自由に区切って利用できるスマートインフィル内では、研究室のゼミや PBL などの授業も行われています。授業内容の質問や学習方法などを相談する学習支援コーナーも設置されています。

GCE要素
コミュニケーション力・自律的学習力

●ラーニングアゴラ棟

アゴラ（広場、市場）でいろいろな店を出したり多彩なイベントを行うライメージで、グループワークや自習などの学習に加え、国際交流、学会、講演会、市民講座なども行えるような多目的空間として整備されました。施設内は、無線 LAN や音響設備も完備してあり、学生活動の拠点として活用されることが期待されています。

GCE要素
コミュニケーション力・自律的学習力

●ランゲッジ・ラウンジ

曜日ごとに初級英会話やネイティブ・コーディネーターによる英語でのプレゼンテーション指導、日本人学生や留学生による自国の文化紹介など、様々な活動を行っています。

●グローバルコミュニケーションラウンジ

複数の外国語と日本語が堪能で、国際経験豊かなスタッフが常駐して、交流をサポートしています。外国語に親しみ、国際的なコミュニケーション能力を高める取り組みを実施しています。

GCE要素
多様な文化の受容・コミュニケーション力

●MACS（マックス）

四方に設置したスクリーンとプロジェクターを活用した多面のプレゼンテーション実施、遠隔会議システムによる教育・研究指導や研究会議、大きな空間を利用した研究発表会など多様な教育・研究交流の場として活用されています。

GCE要素
多様な文化の受容・
コミュニケーション力・自律的学習力

●明専寮●国際研修館
●スチューデント・レジデンス

九工大の寮には、寮での共同生活を通じて、グローバルリーダーの育成を目指す明専寮、日本人学生と外国人留学生が混住した、国際交流と協働学習のための国際研修館、日本人学生と留学生がルームシェアするスチューデント・レジデンスの３つがあります。

GCE要素
多様な文化の受容・コミュニケーション力

Campus on X

海外学習経験（StudyAbroad）、海外就業体験（WorkAbroad）を推進するために、国際共同研究の推進を強化し、海外拠点の整備、拡充を行います。現在、マレーシアプトラ大学内に設置している海外教育研究拠点 MSSC の活動の充実を図るとともに、新たな海外拠点の整備に取り組みます。

MSSC on UPM（マレーシアプトラ大学）

2013 年 4 月にマレーシアの国立マレーシアプトラ大学（UPM）内に開設した海外教育研究拠点です。

設置目的

1. 学生のグローバル化
2. 優秀な外国人留学生の獲得
3. 国際的な研究活動の推進
4. 教職員のグローバル化

GCE

学生プロジェクト
Kyutech Ambitious

本事業は、課題探究とその解決能力を涵養し、工学基礎力とともに、コミュニケーション能力、及び幅広い教養を身に付け、企業や社会において先導的リーダーシップを発揮することのできる創造的人材の育成を目的としています。

創造学習プロジェクト

すでに活動実績があり、教員の指導のもと、全日本学生フォーミュラ大会、ロボットコンテストなどの技術系競技会への参加や、エコプロジェクト、地域活性化プロジェクトなどの地域貢献活動に取り組む学生グループに対して、明専会などとともに、1 団体につき、200 万円を限度として、活動経費を支援するものです。

■RoDEP

レスキューロボットを製作し、ロボカップジャパンオープンで上位入賞を目指します。

■Kyutech Underwater Robotics

水中ロボットの開発を行い、水中ロボット競技会での優勝を目指します。

Other Projects

- ■衛星開発プロジェクト
- ■Hibikino Toms
- ■ロボコンプロデュース出場プロジェクト
- ■飯塚未来開発
- ■team 北キュー
- ■学生フォーミュラ（KIT-Formula）
- ■e-car
- ■DSP システム部
- ■Kyutech-Mold
- ■マイクロメカニズムコンテスト参加プロジェクト
- ■Hibikino-Musashi@Home
- ■FARoPS（ファロプス）

産学連携プロジェクト（安川電機プロジェクト）

活動実績の有無を問わず、メカトロニクスものづくり活動に取り組む団体に対して、株式会社安川電機の協力を得て活動経費を支援するものです。

■Hibikino-Musashi

人工知能を搭載したサッカーロボットを開発し、ロボカップサッカー中型リーグで上位入賞を目指します。

夢チャレンジプロジェクト

将来的に発展が見込まれる新規プロジェクトのスタートアップ支援として、萌芽的取組を行う団体に対し、1 団体 30 万円を限度として支援します。

- ■DEAGLE（デーグル）
- ■フリーダム

特別賞

千鳥屋本家賞

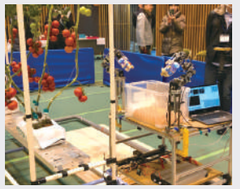
創造学習プロジェクトの採択団体の中から、株式会社千鳥屋本家の協力を得て活動経費を追加支援するものです。

■衛星開発プロジェクト

超小型人工衛星を開発し、ミッション提案、試験、打ち上げ後の運用を行うことを目指します。

佐電工賞

創造学習プロジェクトの採択団体の中から、株式会社佐電工の協力を得て活動経費を追加支援するものです。



■FARoPS（ファロプス）

トマト収穫ロボット、森林資源管理用半自律型ドローン、海岸清掃ロボットを開発し、競技会での入賞を目指します。

■飯塚未来開発

先端基幹研究センター等

Kyutech Research

九州工業大学の長期的な研究力強化を図るため、学内の研究支援組織であるオープンイノベーション推進機構に「重点研究推進領域」を立ち上げ、この領域内に各種研究センター・研究ユニットを配置しています。その中でも先端基幹研究センターは、本学の先端的な研究分野を核として部局の枠を超えた研究者が結集し、戦略的研究の推進や異分野融合など本学の基幹となる研究領域の開拓を行うとともに、大型外部資金の獲得やイノベーションの創出並びに多くの若手研究者の活躍等を通じて、世界的な研究拠点の形成を目指しています。

各種研究センター・研究ユニット

先端基幹研究センター	代表
革新的宇宙利用実証ラボラトリー	趙　孟佑　教授
環境エネルギー融合研究センター	宮﨑 康次　教授
次世代パワーエレクトロニクス研究センター	大村 一郎　教授
ニューロモルフィックAIハードウェア研究センター	田中 啓文　教授

重点プロジェクトセンター	代表
IoTシステム基盤研究センター	中藤 良久　教授
データサイエンス基盤研究センター	岡部 孝弘　教授
高信頼知的集積システム研究センター	黒崎 正行　准教授
社会ロボット具現化センター	林　英治　教授

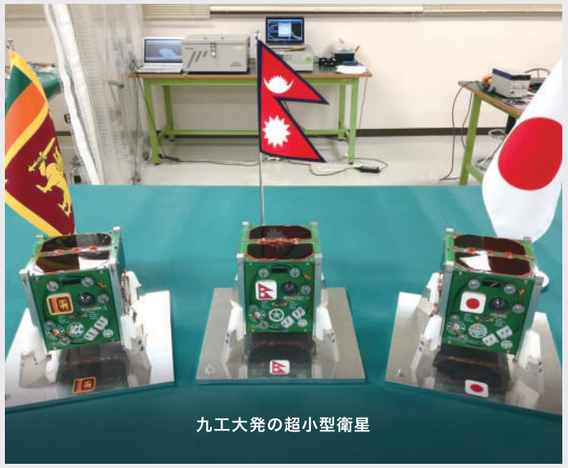
研究連携プロジェクトセンター	代表
植物シンセティックバイオロジー工学研究センター	花田 耕介　教授
イノベーションロボティクスセンター	西田 祐也　准教授
グリーンマテリアル研究センター	安藤 義人　准教授

戦略的研究ユニット	代表
高温超伝導体のさらなる転移温度向上を目指した物質設計ユニット	美藤 正樹　教授
スマートライフケア社会創造ユニット	柴田 智広　教授
マルチスケール化学による革新的光エネルギー・物質変換材料の創製ユニット	中戸 晃之　教授
高信頼設計エッジ・クラウド・ネットワーク研究ユニット	塚本 和也　准教授

01 Research 革新的宇宙利用実証ラボラトリー（La SEINE）

代表：趙 孟佑 教授

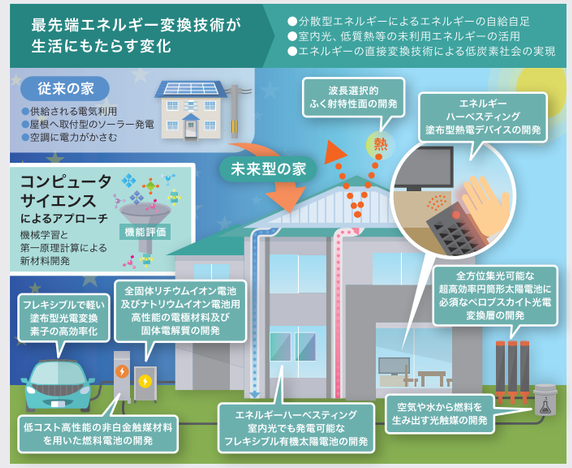
超小型衛星の開発と利用が世界中で進められています。超小型衛星はこれまで JAXA や NASA 等の国家機関が作ってきた人工衛星に比べて、遥かに安価で短期間に開発できます。九工大は世界で一番多くの超小型衛星を打ち上げている大学です。超小型衛星を使った新たな宇宙利用を進め、誰でもが宇宙開発と利用に携わり、宇宙利用の恩恵を得ることができる社会を目指しています。


九工大発の超小型衛星

02 Research 環境エネルギー融合研究センター（i-ENERON）

代表：宮﨑 康次 教授

近年、深刻さを増している地球温暖化はエネルギー問題と直結しており、エネルギー変換技術に関する研究の社会的重要性、緊急性は益々高まっています。本センターは、現在主流の熱エネルギーから力学的エネルギーとし電気エネルギーへ変換する技術に代わる、光ー熱ー物質ー電気エネルギー直接変換技術の研究に学術的に取り組み、「もの」から「エネルギー」創りへシフトしていく社会に貢献します。



03 Research 次世代パワーエレクトロニクス研究センター（nPErc）

代表：大村 一郎 教授

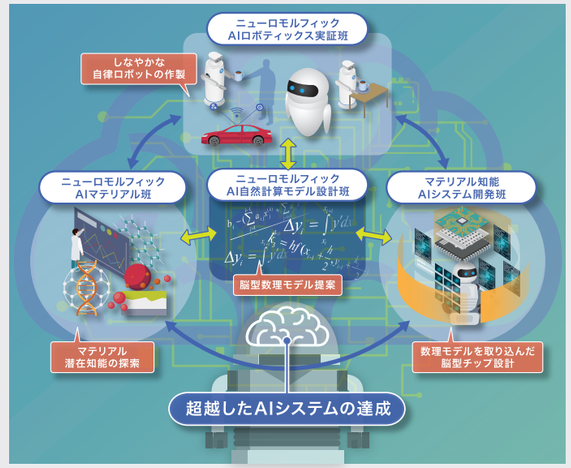
本センターは、エネルギーの有効利用に関わるエレクトロニクスの先進的な拠点として 2012 年に設立されました。2018 年度には環境省よりその活動が認められ地球温暖化防止環境大臣表彰（技術開発・製品化部門）を受賞いたしました。今後も下記の先進的な技術開発に努めてまいります。

- 究極の省エネを目指した極限パワー半導体の研究開発
- 超小型化を実現する集積化パワーエレクトロニクスの研究開発
- パワー半導体の故障原因に迫るリアルタイム・モニタリング技術の開発
- パワーエレクトロニクス制御とデジタルネットワークとの融合

04 Research ニューロモルフィックAIハードウェア研究センター（Neumorph Center）

代表：田中 啓文 教授

現在の高性能 AI システムは、ソフトウェアベースで構築されており、その高い計算能力の代償として莫大な電力消費量が問題となっています。本センターでは、材料自身が持つ潜在知能を発掘・活用し、高効率・高性能な脳型 AI ハードウェアを開発します。材料・デバイス・回路・システム・アルゴリズムの各研究分野の研究者が連携し、併せて脳科学の知見を取り込むことで、ハードウェアベースの新しいスタイルの AI システムへとパラダイムシフトを実現します。



福利施設・海外教育研究拠点・サテライトキャンパス

Welfare Facilies・Satellite Office・Satellite Campuses

厚生施設

戸畑キャンパス

1階｜食堂ホール(550席)
2階｜売店(書籍・文具・食品)

飯塚キャンパス

1階｜食堂ホール(666席)、売店(文具・食品・書籍)
　　グローバルコミュニケーションラウンジ
2階｜喫茶、和室
　　国際交流ルーム

戸畑キャンパス：面積／1,577㎡、飯塚キャンパス：面積／2,375㎡

鳳龍会館

戸畑キャンパス

清家清氏の設計により創立50周年募金で建設され、様々な交流活動の拠点として活用されています。建物内には会議室、ランゲッジ・ラウンジがあり、ロビーには、本学OBの顕彰プレートなどを展示しています。

面積／476㎡(ロビー/214㎡)

海外教育研究拠点

九工大・KMUTNB
コラボレーション・サテライトオフィス

共同研究事業、優秀な留学生のリクルーティング、本学の情報発信、学生交流プログラムの実施などの国際連携事業の推進を目的として、タイ・キングモンクット工科大学北バンコク校に、2019年3月に設置されました。

大学会館

戸畑キャンパス

1階｜食堂（161席）
　　自主学習室　相談室
2階｜活動室7室
3階｜活動室2室

面積／1,185㎡

学生寮など

戸畑キャンパス

明専寮｜対象／学部1・2年生男子(留学生含む)
　　面積／2,055㎡
国際研修館｜対象／学部2年生～大学院生の男子、
　　学部1年生～大学院生の女子(留学生含む)
　　面積／2,413㎡

飯塚キャンパス

スチューデント・レジデンス｜対象／学部・大学院生の男女(留学生含む)
　　面積／1,285㎡

戸畑キャンパス／飯塚キャンパス

国際交流会館｜対象／留学生・外国人研究者など
　　戸畑 面積／1,686㎡　飯塚 面積／785㎡

海外教育研究拠点

MSSC

マレーシアプトラ大学の構内に、日本の国立大学初の学位授与プログラムを実施するための海外教育研究拠点「MSSC」を設置しています。本学では、MSSCを利用した、研究交流・共同研究、及び相互学生交流事業などのグローバル展開事業を推進しています。

学生支援プラザ

戸畑キャンパス

1階｜情報基盤室
　　戸畑キャリア支援室
　　学生総合支援室
2階｜学術展示室　明専アーカイブ

面積／688㎡

長陽山荘（学外研修施設）

学生及び教職員の交流と正課及び課外活動の助成を目的として、阿蘇の大自然に囲まれた阿蘇郡長陽村（現：南阿蘇村）に、同窓会「明専会」の寄附により設置されました。

居室(延床面積/314㎡　構造W2一部RC)(収容人数約35名)
研修室(洋室)1　研修室(和室)2　宿泊室・談話室2
浴室2　管理人室　厨房
〒869-1404　熊本県阿蘇郡南阿蘇村河陽607-1

サテライトキャンパス

九州工業大学サテライト福岡天神

福岡市天神のイムズビル11Fにサテライトキャンパスを設置しています。大学紹介（パネル・ビデオ・実物展示）、e-ラーニング（大学の講義をバーチャル体験）、免許法認定公開講座などを行っています。

図書館・ミュージアム・記念館

Library and Museums

附属図書館

附属図書館(戸畑キャンパス)

情報工学部分館(飯塚キャンパス)

About

附属図書館は、大学の教育と研究活動に必要な図書・雑誌・文献などを収集・整理・保存し、学術・学習の利用に供する施設です。一般の方も簡単な手続きでご利用いただけます。

区　分	蔵書数	建　物	備　考	閲覧室座席数
附属図書館 (戸畑キャンパス)	444,519冊	5,491㎡	1967年2階建新築1,693㎡、1972年3階建増築872㎡、 1977年増築734㎡、1996年増築2,192㎡、 1998年改修3,299㎡、現在4階建書庫5層	594席
情報工学部分館 (飯塚キャンパス)	147,568冊	2,470㎡	1991年8月竣工　RC3階建	328席
合　計	592,087冊	7,961㎡	—	922席

明専アーカイブ

About

明治専門学校時代から今日までの貴重な文献、書巻、写真、絵画、模型などを展示しています。

展示品一例

- 財団法人私立明治専門学校設立許可書
- 徳目八箇条
- 山川健次郎講演直筆原稿
- 恩賜記念賞銀時計
- 明治専門学校本館模型

ご利用案内

開館時間／8:30～12:00、13:00～16:00
休 館 日／土日祝・年末年始・夏季休業日(8月13日を起算日とする休日を除く連続する3日間)
入 場 料／無料・要予約
場　　所／北九州市戸畑区仙水町1-1　学生支援プラザ2F
ご予約・お問い合せ／九州工業大学 総務課社会連携係
TEL：093-884-3004　　E-mail：sou-renkei@jimu.kyutech.ac.jp

百周年中村記念館

本学の創立100周年を迎えるにあたり、本学の卒業生である中村孝氏の寄附により建設し、2013年3月に開館しました。

施設の貸し出し

多目的ホール、特別会議室は、本学の会議・イベントなどで利用していない日に一般の方へ貸し出しが可能です(有料・10日前までに申請)。
ご予約・お問い合せ／
九州工業大学 会計課資産管理係
TEL：093-884-3031
E-mail:kai-shisan@jimu.kyutech.ac.jp

主な施設

- 多目的ホール：294㎡
  定員：150人
- 特別会議室：96㎡
  定員：50人
- 中村ギャラリー
- 藤田ギャラリー
- カフェレストラン

キャンパスマップ

Campus map

講義・研究・実験施設

1 教育研究2号棟
2 教育研究3号棟
3 教育研究4号棟
4 実験1号棟
5 教育研究1号棟
6 総合教育棟
7 教育研究5号棟
8 教育研究6号棟
9 実習工場A棟
10 教育研究10号棟
11 教育研究9号棟
12 教育研究7号棟
13 グリーンキューブプロジェクト実験棟
14 実習工場B棟
15 総合研究1号棟
16 教育研究8号棟
17 実験3号棟
18 省資源開発実験室
19 超高速衝突実験室
20 情報学習プラザ
21 製図講義棟
22 インタラクティブ学習棟「MILAiS（ミライズ）」
23 総合研究2号棟
24 総合研究3号棟
25 風洞実験棟
26 未来型インタラクティブ教育棟

教育研究支援施設

31 コラボ教育支援棟
　オープンイノベーション推進機構
　高大接続・教育連携機構
32 学生支援プラザ
　1F 戸畑キャリア支援室
　2F 大学歴史資料室
　（明専アーカイブ）
33 附属図書館
34 廃液分析棟
35 廃液管理棟
36 機器分析センター

共通施設

51 記念講堂
52 鳳龍会館
53 保健センター
54 大学会館
55 福利施設（大学生協）
56 弓道場
57 プール
58 武道場
59 課外活動施設（サークル棟）
60 体育館（旧）
61 仙水荘（教職員等宿泊施設）
62 ものつくり工房
63 百周年中村記念館
64 橿山館（しょうざんかん）（体育館）
65 自動車部車庫

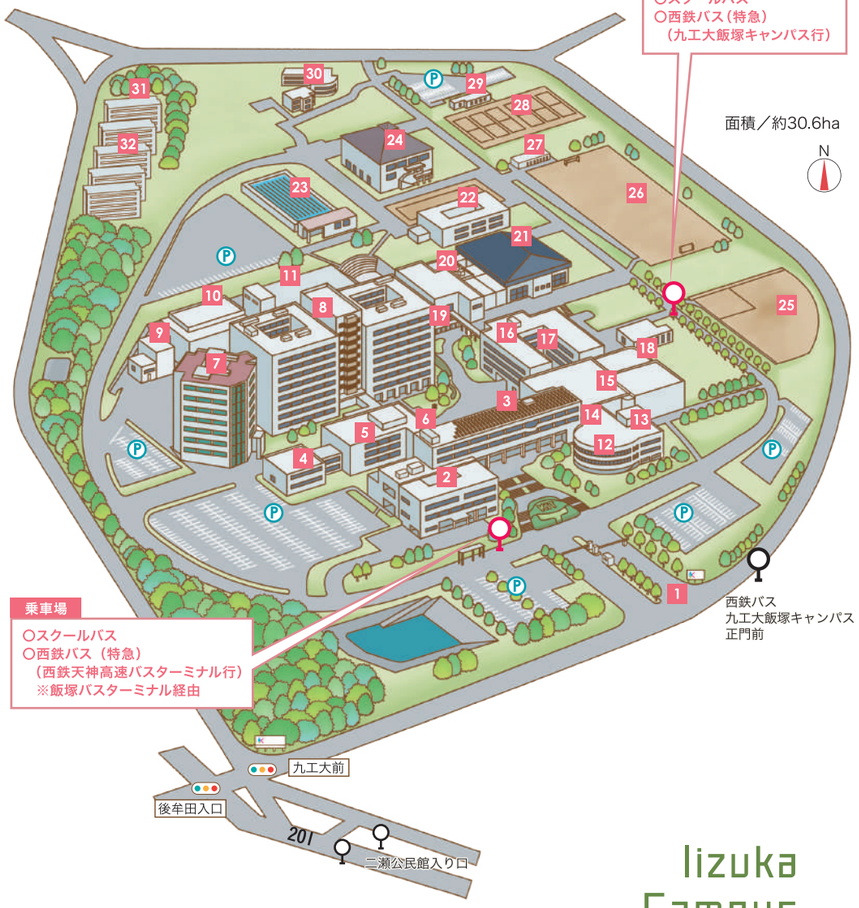
事務施設・他

71 本部棟（事務本部）
72 総合教育棟（工学部事務部）
73 明専寮
74 第1アパート
75 第2アパート
76 国際交流会館A棟
77 国際交流会館B棟
78 外国人教師宿舎
79 第3アパート
80 国際研修館

その他

A 多目的広場
B 運動場
C テニスコート
D 野球場

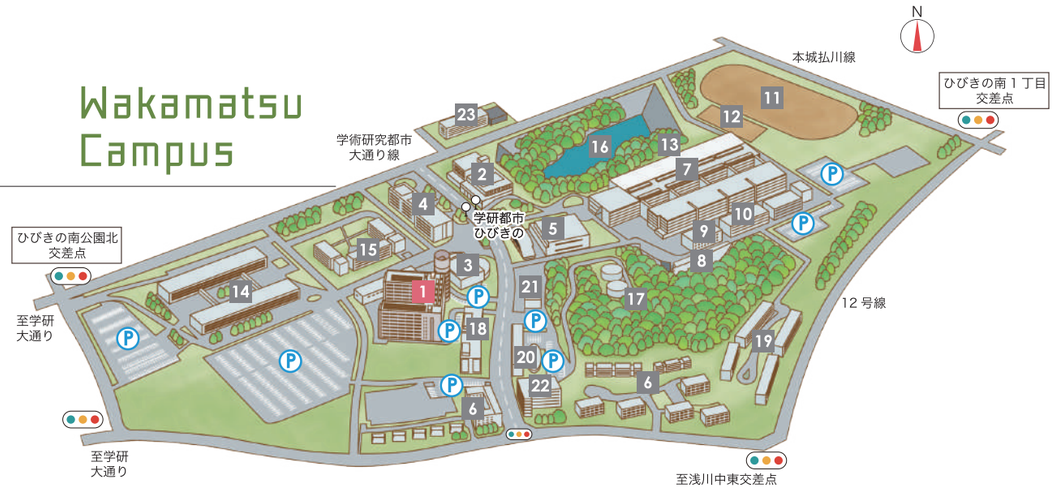
戸畑キャンパス
工学部／大学院工学府
Tobata Campus



1 正門
2 研究管理棟
3 共通教育研究棟
4 インキュベーション施設
5 情報基盤センター
6 キャリア支援室
7 総合研究棟
8 研究棟
9 研究棟サテライト1
10 実習棟
11 マイクロ化総合技術センター
12 附属図書館情報工学部分館
13 ラーニング・コモンズ
14 飯塚サイエンスギャラリー（ISG）
15 大講義棟
16 講義棟
17 ものつくり工房
18 インタラクティブ学習棟「MILAiS（ミライズ）」
19 グローバル・コミュニケーション・ラウンジ（GCL）
20 福利施設（食堂・売店・喫茶・ATM等）
21 ラーニング・アゴラ棟
22 課外活動共用施設
23 プール
24 体育館
25 野球場
26 多目的グラウンド
27 体育器具庫
28 テニスコート
29 テニス器具庫
30 国際交流会館
31 スチューデント・レジデンス
32 職員宿舎

飯塚キャンパス
情報工学部／大学院情報工学府
Iizuka Campus

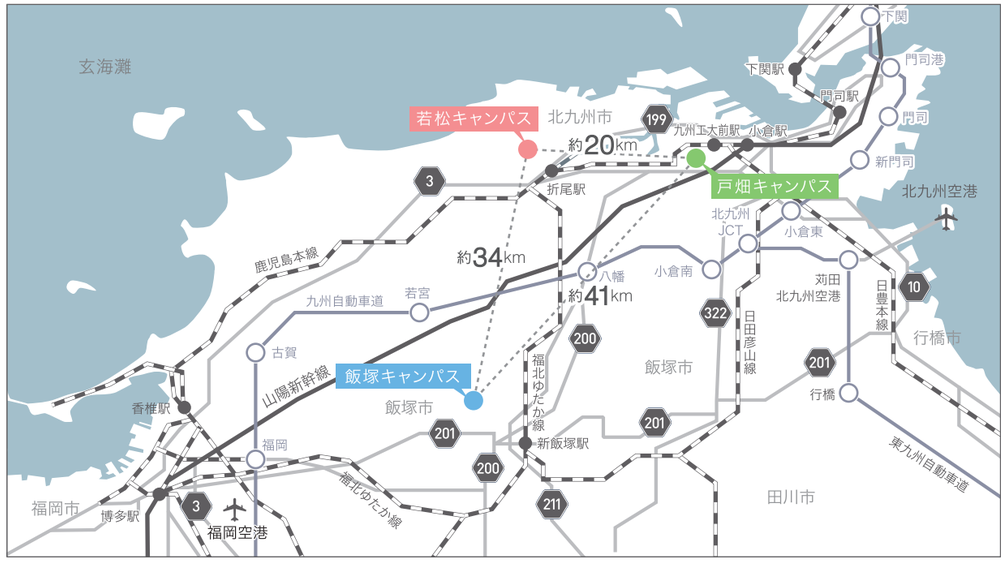
若松キャンパス
大学院生命体工学研究科
（北九州学術研究都市内）
Wakamatsu Campus



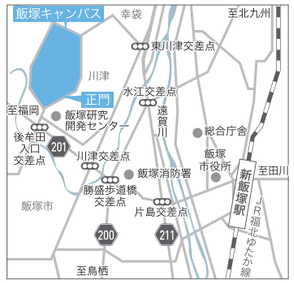
1 九州工業大学 大学院生命体工学研究科
2 学術情報センター（図書館・情報処理施設）
3 会議場
4 産学連携センター
5 体育館
6 教職員宿舎
7 北九州市立大学 国際環境工学部 大学院国際環境工学研究科
8 環境エネルギーセンター
9 北九州市立大学 計測・分析センター
10 北九州市立大学 特殊実験棟
11 運動場
12 テニスコート
13 クラブ棟
14 早稲田大学大学院 情報生産システム研究科
15 早稲田大学 情報生産システム研究センター
16 花村池
17 配水池
18 情報技術高度化センター
19 留学生宿舎
20 北九州市立大学 留学生会館
21 共同研究開発センター
22 事業化支援センター
23 技術開発交流センター

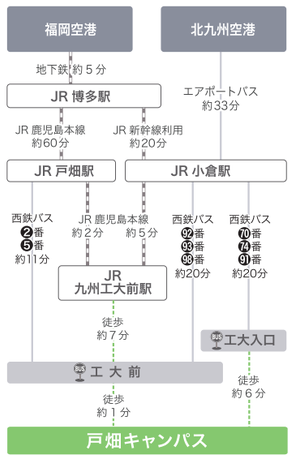
交通案内

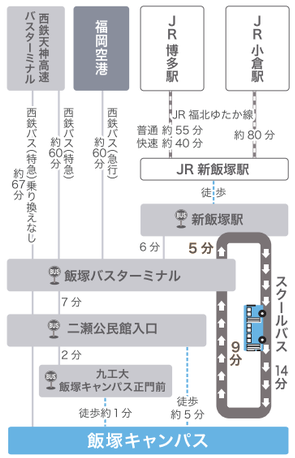
Access

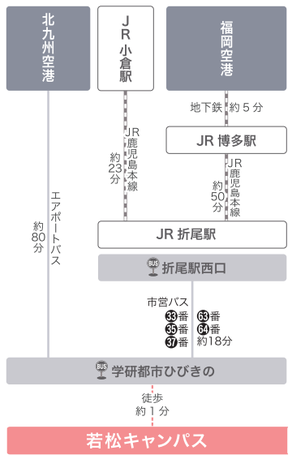


戸畑キャンパス









〒804-8550 福岡県北九州市戸畑区仙水町1番1号
TEL:093-884-3000(代)

飯塚キャンパス

〒820-8502 福岡県飯塚市川津680-4
TEL:0948-29-7500(代)

若松キャンパス

〒808-0196 福岡県北九州市若松区ひびきの2-4
TEL:093-695-6000(代)

INDEX

19 沿革
21 組織図(運営組織)
22 組織図(教育研究組織)
23 役職員名簿
24 職員数
25 学生数(学部)
26 学生数(大学院)
27 外国人留学生在学状況
28 入学者状況・奨学金受給状況
29 進路状況(学部)
30 進路状況(大学院)
31 国際交流協定校
33 外部資金・予算・決算

沿革 History

私立明治専門学校

1907年（明治40年7月23日）	私立明治専門学校（4年制）	設立認可	
1909年（明治42年4月1日）		開　校	採鉱学科、冶金学科、機械学科
1911年（明治44年4月1日）		学生受入	応用化学科、電気工学科

官立明治専門学校

1921年（大正10年3月30日）	官立明治専門学校（4年制）	官立移管	鉱山工学科、冶金工学科、機械工学科、応用化学科、電気工学科
1938年（昭和13年4月1日）		学科増設	採炭工学科（昭和18.3.31廃止）
1943年（昭和18年4月1日）		学科増設	火薬学科
1944年（昭和19年4月1日）	明治工業専門学校（3年制）	改　称	採鉱科、冶金科、機械科、化学工業科、電気科、火薬科
		学科増設	製鉄機械科
1945年（昭和20年4月1日）		学科増設	電気通信科、第二部機械科、第二部電気科
1946年（昭和21年4月1日）		設置学科統合	採鉱科、冶金科、機械科甲類/乙類、化学工業科甲類/乙類 電気科、電気通信科、第二部機械科、第二部電気科

九州工業大学

1949年（昭和24年5月31日）	九州工業大学	明治工業専門学校を包括、設置	鉱山工学科、機械工学科、電気工学科、金属工学科、工業化学科
1951年（昭和26年3月31日）	明治工業専門学校	廃　止	
1951年（昭和26年4月1日）	九州工業大学短期大学部（夜間3年制）	併　設	機械科、電気科
1954年（昭和29年4月1日）	工学専攻科	設　置	鉱山工学科、機械工学科、電気工学科、金属工学科、工業化学科
1959年（昭和34年4月1日）	工学部第二部（夜間5年制）	設　置	機械工学科、電気工学科
1960年（昭和35年4月1日）		学科増設	制御工学科
1961年（昭和36年3月31日）	九州工業大学短期大学部	廃　止	
1962年（昭和37年4月1日）		学科増設	機械工学第二学科
1964年（昭和39年4月1日）		改　称	開発土木工学科（旧鉱山工学科）
		学科増設	電子工学科、制御工学科（工学専攻科）
1965年（昭和40年3月31日）	工学専攻科	廃　止	
1965年（昭和40年4月1日）	大学院工学研究科（修士課程）	設　置	開発土木工学専攻、機械工学専攻、電気工学専攻 金属工学専攻、工業化学専攻、制御工学専攻
1966年（昭和41年4月1日）		修士課程増設	機械工学第二専攻
1967年（昭和42年4月1日）		学科増設	金属加工学科
1968年（昭和43年4月1日）		修士課程増設	電子工学専攻
1971年（昭和46年4月1日）		学科増設	情報工学科
		修士課程増設	金属加工学専攻
1974年（昭和49年4月1日）		学科増設	環境工学科
1975年（昭和50年4月1日）		修士課程増設	情報工学専攻
1975年（昭和50年5月10日）	保健管理センター	設置（平成16.4.1～保健センターに改称）	
1977年（昭和52年4月1日）		学科増設	工学部第二部材料工学科
1978年（昭和53年4月1日）		修士課程増設	環境工学専攻
1986年（昭和61年10月1日）	情報工学部	設　置	
1987年（昭和62年4月1日）		学生受入	知能情報工学科、電子情報工学科
1987年（昭和62年5月21日）	情報科学センター	設置（令和2.4.1～情報基盤センターに改称）	
1988年（昭和63年4月1日）	情報工学部	学生受入	制御システム工学科、機械システム工学科
	大学院工学研究科（博士課程）	設　置	設計生産工学専攻、電気工学専攻、物質工学専攻
	工学部改組	設　置	設計生産工学科、電気工学科、物質工学科、夜間主コース（4年制）
1989年（平成元年4月1日）	情報工学部	学生受入	生物化学システム工学科
1989年（平成元年5月29日）	地域共同研究センター	設　置	
1990年（平成2年6月8日）	マイクロ化総合技術センター	設　置	
1991年（平成3年4月1日）	大学院情報工学研究科（修士課程）	設　置	情報科学専攻、情報システム専攻
1993年（平成5年4月1日）	大学院情報工学研究科（博士課程）	設　置	情報科学専攻、情報システム専攻
	機器分析センター	設　置	
1995年（平成7年11月1日）	サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー	設　置	
1997年（平成9年3月31日）	工学部改組	廃　止	設計生産工学科
1997年（平成9年4月1日）		設　置	機械知能工学科、建設社会工学科
2000年（平成12年4月1日）	大学院生命体工学研究科（独立研究科／博士課程）	設　置	
2001年（平成13年3月31日）	大学院工学研究科（博士課程）	廃　止	設計生産工学専攻
2001年（平成13年4月1日）		設　置	機械知能工学専攻、建設社会工学専攻
	大学院生命体工学研究科（独立研究科／博士課程）	学生受入	生体機能専攻、脳情報専攻
2002年（平成14年4月1日）	大学院情報工学研究科（博士課程）	設　置	情報創成工学専攻
2003年（平成15年4月1日）	大学院工学研究科（博士課程）	設　置	機能システム創成工学専攻
2004年（平成16年4月1日）	国立大学法人九州工業大学	設置（国立大学法人が設置した国立大学となる）	
2004年（平成16年4月1日）	情報工学部改組	廃止及び設置	システム創成情報工学科（旧制御システム工学科） 機械情報工学科（旧機械システム工学科） 生命情報工学科（旧生物化学システム工学科）
2004年（平成16年4月1日）	ヒューマンライフIT開発センター	設　置	
2004年（平成16年12月1日）	宇宙環境技術研究センター	設置（平成22.7.7～宇宙環境技術ラボラトリーに改称、令和2.4.1～革新的宇宙利用実証ラボラトリーに改称）	
	ネットワークデザイン研究センター	設　置	
	先端金型センター	設　置	
	バイオマイクロセンシング技術研究センター	設　置	
2005年（平成17年11月2日）	理数教育支援センター	設　置	
2005年（平成17年12月7日）	エコタウン実証研究センター	設　置	

2006年（平成18年4月1日）	工学部夜間主コース	学生募集停止	
2006年（平成18年10月1日）	産学連携推進センター	改組（地域共同研究センター）	
2006年（平成18年10月27日）	情報通信技術教育センター	設　置	
2007年（平成19年4月1日）	環境マネジメントセンター	設　置	
2007年（平成19年4月20日）	先端エコフィッティング技術研究開発センター	設　置	
2008年（平成20年4月1日）	大学院改組	廃止及び設置	工学研究院、工学府（旧工学研究科）、情報工学研究院 情報工学府（旧情報工学研究科）
	工学部改組	廃止及び設置	電気電子工学科（旧電気工学科） 応用化学科（旧物質工学科） マテリアル工学科（旧物質工学科）、総合システム工学科
2009年（平成21年3月31日）	サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー	廃　止	
2009年（平成21年4月1日）	産学連携推進センター 若松分室	改組（ヒューマンライフIT開発センター）	
2009年（平成21年5月28日）	創立100周年		
2010年（平成22年3月31日）	情報通信技術教育センター	廃　止	
2011年（平成23年4月1日）	学習教育センター	設　置	
2011年（平成23年9月7日）	若手研究者フロンティア研究アカデミー	設　置	
2012年（平成24年3月31日）	環境マネジメントセンター	廃　止	
2012年（平成24年4月1日）	グリーンイノベーション実践教育研究センター	設　置	
	バイオメディカルインフォマティクス研究開発センター	設　置	
2012年（平成24年5月2日）	次世代パワーエレクトロニクス研究センター	設　置	
2012年（平成24年9月1日）	イノベーション推進機構	設　置	
	リサーチ・アドミニストレーション・センター	設　置	
2013年（平成25年4月1日）	情報基盤機構	設　置	
	社会ロボット具現化センター	設　置	
	ディペンダブル集積システム研究センター	設置（令和2.4.1～高信頼知的集積システム研究センターに改称）	
	MSSC（海外教育研究拠点）	設　置	
2014年（平成26年4月1日）	大学院工学府改組	廃止及び設置	博士後期課程 工学専攻（1専攻化）
	大学院情報工学府改組	廃止及び設置	博士前期課程 先端情報工学専攻（旧情報科学専攻） 学際情報工学専攻（旧情報システム専攻） 博士後期課程 情報工学専攻（1専攻化）
	大学院生命体工学研究科改組	廃止及び設置	博士前期課程 生体機能応用工学専攻（旧生体機能専攻） 人間知能システム工学専攻（旧脳情報専攻） 博士後期課程 生命体工学専攻（1専攻化）
	教育高度化推進機構	設　置	
2015年（平成27年4月1日）	イノベーション推進機構改組	廃止及び設置	産学連携・URA領域（旧産学連携推進センター、 旧リサーチ・アドミニストレーション・センター） 戦略的研究推進領域
2015年（平成27年12月2日）	イノベーション推進機構改組	設　置	共同研究推進領域
2016年（平成28年3月31日）	グリーンイノベーション実践教育研究センター	廃　止	
2016年（平成28年4月1日）	教養教育院	設　置	
2017年（平成29年10月1日）	IoTシステム基盤研究センター	設　置	
	太陽光エネルギー変換研究センター	設置（令和2.4.1～環境エネルギー融合研究センターに改称）	
2018年（平成30年3月31日）	ネットワークデザイン研究センター	廃　止	
	先端エコフィッティング技術研究開発センター	廃　止	
	理数教育支援センター	廃　止	
2018年（平成30年4月1日）	高大接続・教育連携機構	設　置	AO部門、高大接続部門、STEM教育推進部門
	イノベーション推進機構改組	廃止及び設置	産学連携・URA領域をグローバル産学連携センターに改組
	工学部学科改組	廃止及び設置	建設社会工学科、機械知能工学科、宇宙システム工学科 電気電子工学科、応用化学科、マテリアル工学科
	情報工学部学科改組	廃止及び設置	知能情報工学科、情報・通信工学科、知的システム工学科 物理情報工学科、生命化学情報工学科
2018年（平成30年4月9日）	分子工学研究所	設　置	
2019年（平成31年4月1日）	大学院工学府改組	廃止及び設置	博士前期課程 工学専攻（1専攻化）
2020年（令和2年3月31日）	先端金型センター	廃　止	
	バイオマイクロセンシング技術研究センター	廃　止	
	エコタウン実証研究センター	廃　止	
	若手研究者フロンティア研究アカデミー	廃　止	
	バイオメディカルインフォマティクス研究開発センター	廃　止	
2020年（令和2年4月1日）	健康支援・安全衛生推進機構	設　置	学生健康部門、安全衛生部門、環境部門
	キャリア支援センター	設　置	
	イノベーション推進機構改組 （オープンイノベーション推進機構に改称し、革新的宇宙利用実証ラボラトリー、環境エネルギー融合研究センター、次世代パワーエレクトロニクス研究センター、ニューロモルフィックAIハードウェア研究センター、IoTシステム基盤研究センター、データサイエンス基盤研究センター、高信頼知的集積システム研究センター、社会ロボット具現化センター、植物シンセティックバイオロジー工学研究センター、イノベーションロボティクスセンター、グリーンマテリアル研究センターを包括）	廃止及び設置	産学官連携本部（旧グローバル産学連携センター） 重点研究推進領域（旧戦略的推進研究領域） 設備共用推進領域
	情報基盤機構改組	廃止及び設置	ネットワークセキュリティ基盤運用室（旧情報基盤運用室） ICT利活用教育研究基盤運用室

運営組織 Management and Administration Tree

監事

学　長

- 理事・副学長（研究・総務・国際・施設担当）
- 理事・副学長（教育・学生・情報担当）
- 理事・副学長（入試・計画評価・ダイバーシティ担当）
- 理事・副学長（経営改革・財務担当）
- 理事・副学長（広報・社会連携担当）

室・センター

- インスティテューショナル・リサーチ室
- 広報戦略室
- 男女共同参画推進室
- 公的研究費不正使用防止計画推進室
- 安全保障輸出管理室
- 研究戦略企画室
- 国際戦略室
- 連携大学院推進室
- 改組準備室
- 保健センター
- キャリア支援センター

機構

オープンイノベーション推進機構
- 産学官連携本部
- 重点研究推進領域
- 設備共用推進領域
  - マイクロ化総合技術センター
  - 機器分析センター

教育高度化推進機構
- 教育企画室
- 学習教育センター

健康支援・安全衛生推進機構
- 学生健康部門
- 安全衛生部門
- 環境部門
- 学生総合支援室

情報基盤機構
- 情報基盤センター
- 情報基盤企画室
- ネットワークセキュリティ基盤運用室
- ICT利活用教育研究基盤運用室

高大接続・教育連携機構
- AO部門
- 高大接続部門
- STEM教育推進部門

事務組織

事務本部
- 総務課
- 人事課
- 会計課
- 施設課
- 研究協力課
- 学務課
- 入試課
- 国際課
- 情報基盤課
- 学長企画室
- 監査室

学部等事務部
- 工学部事務部
- 情報工学部事務部
- 大学院生命体工学研究科事務部
- 教養教育院事務室

技術組織

- 戸畑・若松キャンパス技術部
- 飯塚キャンパス技術部

教育研究組織 Education and Research Organizations

学　長

大学院

研究院

工学研究院
- 機械知能工学研究系
- 建設社会工学研究系
- 電気電子工学研究系
- 物質工学研究系
- 基礎科学研究系
- 宇宙システム工学研究系

情報工学研究院
- 知能情報工学研究系
- 情報・通信工学研究系
- 知的システム工学研究系
- 物理情報工学研究系
- 生命化学情報工学研究系

学府

工学府
- 博士前期課程
  - 工学専攻
- 博士後期課程
  - 工学専攻

情報工学府
- 博士前期課程
  - 先端情報工学専攻
  - 学際情報工学専攻
  - 情報創成工学専攻
- 博士後期課程
  - 情報工学専攻

生命体工学研究科(独立研究科)
- 博士前期課程
  - 生体機能応用工学専攻
  - 人間知能システム工学専攻
- 博士後期課程
  - 生命体工学専攻

教養教育院
- 人文社会系
- 言語系

学部

工学部
- 建設社会工学科
- 機械知能工学科
- 宇宙システム工学科
- 電気電子工学科
- 応用化学科
- マテリアル工学科

情報工学部
- 知能情報工学科
- 情報・通信工学科
- 知的システム工学科
- 物理情報工学科
- 生命化学情報工学科

附属図書館
- 本　館
- 情報工学部分館

研究センター等

先端基幹研究センター
- 革新的宇宙利用実証ラボラトリー
- 環境エネルギー融合研究センター
- 次世代パワーエレクトロニクス研究センター
- ニューロモルフィックAIハードウェア研究センター

重点プロジェクトセンター
- IoTシステム基盤研究センター
- データサイエンス基盤研究センター
- 高信頼知的集積システム研究センター
- 社会ロボット具現化センター

研究連携プロジェクトセンター
- 植物シンセティックバイオロジー工学研究センター
- イノベーションロボティクスセンター
- グリーンマテリアル研究センター

戦略的研究ユニット
- 高温超伝導体のさらなる転移温度向上を目指した物質設計ユニット
- スマートライフケア社会創造ユニット
- マルチスケール化学による革新的光エネルギー・物質変換材料の創製ユニット
- 高信頼設計エッジ・クラウド・ネットワーク研究ユニット

分子工学研究所

※大学院は研究院（教員が所属する研究組織）、学府（博士前期、博士後期課程の教育組織）に分かれています。生命体工学研究科は研究、教育組織が一体となった、学部を持たない独立研究科です。

役職員名簿 Management and Administrative Heads

役員

学長	尾家　祐二
理事・副学長(研究・総務・国際・施設担当)	三谷　康範
理事・副学長(教育・学生・情報担当)	梶原　誠司
理事・副学長(入試・計画評価・ダイバーシティ担当)	芹川　聖一
理事・副学長(経営改革・財務担当)	高崎　秀紀
理事・副学長(広報・社会連携担当)	鈴木　雅子
監事(非常勤)	近藤　倫明
監事(非常勤)	林田　直子

学長特別補佐・副理事

学長特別補佐(産学連携担当)	中原　信隆
副理事(研究担当)	大村　一郎
副理事(国際担当)	神谷　亨
副理事(地方大学・地域産業創生事業担当)	林　英治
副理事(設備共用推進担当)	中村　和之
副理事(学生担当)	中尾　基
副理事(情報担当)	鶴　正人
副理事(入試担当)	青木　俊介
副理事(評価担当)	花本　剛士
副理事(総務担当)	宮松ひろみ

工学研究院(工学府・工学部)

研究院長(学府長・学部長)	横野　照尚
副研究院長(副工学部長)	松田　健次
副研究院長(副工学府長)	中藤　良久
事務長	武谷　英彦

情報工学研究院(情報工学府・情報工学部)

研究院長(学府長・学部長)	安永　卓生
副研究院長(副情報工学部長)	坂本比呂志
副研究院長(副情報工学府長)	鈴木　恵友
事務長(総務系担当)	加来　俊和
事務長(学務系担当)	山出　崇

生命体工学研究科

研究科長	安田　隆
副研究科長	夏目季代久
事務長	白木　智行

教養教育院

教育院長	水井万里子
事務室長(併)	松浦　文明

事務本部

総務課長	宮松ひろみ
人事課長	大賀　恵
会計課長	吉岡　雅之
施設課長	川畑　博康
研究協力課長	川上　幸雄
学務課長	松浦　文明
入試課長	播磨　良輔
国際課長(併)	三宅　智実
情報基盤課長(併)	宮松ひろみ
学長企画室長	三宅　智実
監査室長(併)	宮松ひろみ

技術組織

戸畑・若松キャンパス技術部長	横野　照尚
戸畑・若松キャンパス技術部 技術長	若山　登
飯塚キャンパス技術部長	安永　卓生
飯塚キャンパス技術部 技術長	修行　美恵

附属図書館

館長	梶原　誠司
分館長	安永　卓生

保健センター

センター長	中尾　基

キャリア支援センター

センター長	中尾　基

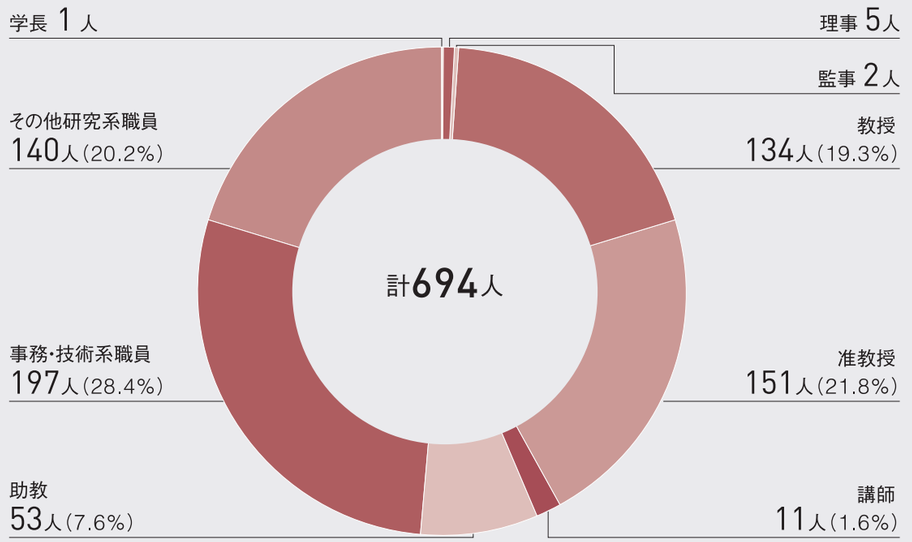
機構

オープンイノベーション推進機構長	三谷　康範
教育高度化推進機構長	梶原　誠司
健康支援・安全衛生推進機構長	中尾　基
情報基盤機構長	梶原　誠司
高大接続・教育連携機構長	芹川　聖一

研究センター等

革新的宇宙利用実証ラボラトリー長	趙　孟佑
環境エネルギー融合研究センター長	宮﨑　康次
次世代パワーエレクトロニクス研究センター長	大村　一郎
ニューロモルフィックAIハードウェア研究センター長	田中　啓文
IoTシステム基盤研究センター長	中藤　良久
データサイエンス基盤研究センター長	岡部　孝弘
高信頼知的集積システム研究センター長	黒崎　正行
社会ロボット具現化センター長	林　英治
植物シンセティックバイオロジー工学研究センター長	花田　耕介
イノベーションロボティクスセンター長	西田　祐也
グリーンマテリアル研究センター長	安藤　義人
分子工学研究所長	北村　充

職員数 Faculty and Staff



区　分	学長	理事	監事	教授	准教授	講師	助教	教育職員合計	事務・技術系職員	その他研究系職員	総計
役員	1	5〈3〉(1)	2(2)								8〈3〉(3)
大学院工学研究院				52	56	1	26	135		27(18)	162(18)
大学院情報工学研究院				47	48	2	15	112		36(14)	148(14)
大学院生命体工学研究科				18	22		4	44	7	41(33)	92(33)
教養教育院				9	15	5		29	1		30
工学部									14		14
情報工学部									14		14
事務本部									85		85
戸畑・若松キャンパス技術部									36		36
飯塚キャンパス技術部									31		31
保健センター				2	1			3	6		9
キャリア支援センター										2(2)	2(2)
オープンイノベーション推進機構				4	4		3	11	2	25(4)	38(4)
健康支援・安全衛生推進機構					1	1		2			2
高大接続・教育連携機構						2		2			2
情報基盤センター				2	2		3	7			7
学習教育センター					1		2	3			3
分子工学研究所										9(1)	9(1)
インスティテューショナル・リサーチ室					1			1			1
男女共同参画推進室									1		1
総　計	1	5〈3〉(1)	2(2)	134	151	11	53	349	197	140(72)	694〈3〉(75)

※〈　〉教授兼務で内数、(　)非常勤で内数

(2020年5月1日現在)

学生数 Enrollment

	学　部		大学院		合　計	
学生数	4,078		1,550		5,628	
女子数・割合	600	14.7%	176	11.4%	776	13.8%
留学生数・割合	34	0.8%	272	17.5%	306	5.4%

学部

類

工学部

類	1年次 男	女	計	(留)
工学１類	59	21	80	
工学２類	144	21	165	2
工学３類	134	10	144	1
工学４類	55	19	74	1
工学５類	61	7	68	1
合　計	453	78	531	5

情報工学部

類	1年次 男	女	計	(留)
情工１類	159	23	182	1
情工２類	100	20	120	
情工３類	98	31	129	
合　計	357	74	431	1

学科

工学部

学科	入学定員	第3年次編入学定員	収容定員	2年次 男	女	計	(留)	3年次 男	女	計	(留)	4年次 男	女	計	(留)	合計 男	女	計	(留)
建設社会工学科	80	1		64	22	86		77	19	96		65	18	83	2	206	59	265	2
機械知能工学科	136	7		131	17	148	1	144	9	153	2	136	12	148	1	411	38	449	4
宇宙システム工学科	55	2		51	8	59	1	44	8	52	1					95	16	111	2
電気電子工学科	126	8		124	10	134	5	128	14	142	2	126	11	137		378	35	413	7
応用化学科	74	1		74	16	90	4	62	24	86		51	14	65	1	187	54	241	5
マテリアル工学科	60	1		54	11	65	1	65	3	68		50	11	61		169	25	194	1
総合システム工学科								4		4		48	8	56		52	8	60	
学科合計	531	20	2,164	498	84	582	12	524	77	601	5	476	74	550	4	1,498	235	1,733	21
工学類合計																453	78	531	5
工学部合計																1,951	313	2,264	26

情報工学部

学科	入学定員	第3年次編入学定員	収容定員	2年次 男	女	計	(留)	3年次 男	女	計	(留)	4年次 男	女	計	(留)	合計 男	女	計	(留)
知能情報工学科	93	7		83	17	100		85	21	106	1					168	38	206	1
情報・通信工学科	93	9		101	10	111		61	11	72						162	21	183	
知的システム工学科	94	9		96	9	105		90	9	99						186	18	204	
物理情報工学科	65	5		65	11	76		40	10	50						105	21	126	
生命化学情報工学科	65	5		50	31	81		36	26	62						86	57	143	
知能情報工学科				1		1		13		13		87	7	94		101	7	108	
電子情報工学科				3		3		23	1	24		91	7	98	3	117	8	125	3
システム創成情報工学科				2		2		13	2	15		78	12	90	1	93	14	107	1
機械情報工学科				1		1	1	13		13		78	3	81		92	3	95	1
生命情報工学科					1	1		1	1	2		59	24	83	1	60	26	86	1
学科合計	410	35	1,710	402	79	481	1	375	81	456	1	393	53	446	5	1,170	213	1,383	7
情報工学類合計																357	74	431	1
情報工学部合計																1,527	287	1,814	8

学部計	入学定員	第3年次編入学定員	収容定員	1年次 男	女	計	(留)	2年次 男	女	計	(留)	3年次 男	女	計	(留)	4年次 男	女	計	(留)	合計 男	女	計	(留)
	941	55	3,874	810	152	962	6	900	163	1,063	13	899	158	1,057	6	869	127	996	9	3,478	600	4,078	34

※(留)留学生数で内数　　(2020年5月1日現在)

大学院

工学府

専攻	入学定員	収容定員	博士前期課程 1年次 男	女	計	(留)	2年次 男	女	計	(留)	合計 男	女	計	(留)	博士後期課程 入学定員	収容定員	1年次 男	女	計	(留)	2年次 男	女	計	(留)	3年次 男	女	計	(留)	合計 男	女	計	(留)
機械知能工学専攻							7	2	9	3	7	2	9	3												1	1			1	1	
建設社会工学専攻							3		3	3	3		3	3																		
電気電子工学専攻							3		3	1	3		3	1											1		1		1		1	
物質工学専攻							1	1	2	1	1	1	2	1																		
先端機能システム工学専攻							3	3	6	5	3	3	6	5											2	1	3		2	1	3	
工学専攻	278	556	265	19	284	22	249	24	273	10	514	43	557	32	24	65	12	4	16	10	33	5	38	23	32	6	38	20	77	15	92	53
合　計	278	556	265	19	284	22	266	30	296	23	531	49	580	45	24	65	12	4	16	10	33	5	38	23	35	8	43	20	80	17	97	53

情報工学府

専攻	入学定員	収容定員	博士前期課程 1年次 男	女	計	(留)	2年次 男	女	計	(留)	合計 男	女	計	(留)	博士後期課程 入学定員	収容定員	1年次 男	女	計	(留)	2年次 男	女	計	(留)	3年次 男	女	計	(留)	合計 男	女	計	(留)
先端情報工学専攻	60	120	61	6	67	7	62	4	66	3	123	10	133	10																		
学際情報工学専攻	90	180	88	9	97	8	72	16	88	7	160	25	185	15																		
情報創成工学専攻	45	90	35	3	38	2	38	6	44	9	73	9	82	11																		
情報工学専攻															14	42	17	2	19	11	13	1	14	8	25	6	31	18	55	9	64	37
合　計	195	390	184	18	202	17	172	26	198	19	356	44	400	36	14	42	17	2	19	11	13	1	14	8	25	6	31	18	55	9	64	37

生命体工学研究科

専攻	入学定員	収容定員	博士前期課程 1年次 男	女	計	(留)	2年次 男	女	計	(留)	合計 男	女	計	(留)	博士後期課程 入学定員	収容定員	1年次 男	女	計	(留)	2年次 男	女	計	(留)	3年次 男	女	計	(留)	合計 男	女	計	(留)
生体機能応用工学専攻	65	130	61	12	73	8	45	6	51	5	106	18	124	13																		
人間知能システム工学専攻	57	114	65	1	66	10	63	11	74	11	128	12	140	21																		
生体機能専攻																									1	1	2		1	1	2	
脳情報専攻																									3		3		3		3	
生命体工学専攻															36	108	28	8	36	23	25	8	33	18	61	10	71	26	114	26	140	67
合　計	122	244	126	13	139	18	108	17	125	16	234	30	264	34	36	108	28	8	36	23	25	8	33	18	65	11	76	26	118	27	145	67

大学院計	入学定員	収容定員	博士前期課程 1年次 男	女	計	(留)	2年次 男	女	計	(留)	合計 男	女	計	(留)	博士後期課程 入学定員	収容定員	1年次 男	女	計	(留)	2年次 男	女	計	(留)	3年次 男	女	計	(留)	合計 男	女	計	(留)	合計 男	女	計	(留)
	595	1,190	575	50	625	57	546	73	619	58	1,121	123	1,244	115	74	215	57	14	71	44	71	14	85	49	125	25	150	64	253	53	306	157	1,374	176	1,550	272

※(留)留学生数で内数　　(2020年5月1日現在)

外国人留学生在学状況 International Student Enrollment

計328人、42ヶ国・地域

	国・地域名	アジア																				北米	中南米								欧州									中東			アフリカ										合計	
	所属	中国	インド	インドネシア	マレーシア	タイ	韓国	バングラデシュ	ベトナム	フィリピン	モンゴル	台湾	パキスタン	ミャンマー	ネパール	スリランカ	ブータン	ラオス	カナダ	メキシコ	パラグアイ	コスタリカ	トリニダード・トバゴ	ホンジュラス	フランス	イタリア	スペイン	ポーランド	ロシア	ブルガリア	シリア	アフガニスタン	トルコ	エジプト	ジンバブエ	スーダン	ナイジェリア	アルジェリア	ケニア	ナミビア	モザンビーク	モロッコ	エチオピア		
合計	合計	116	32	30	20	19	18	11	10	9	8	3	3	3	2	1	1	1	1	3	2	1	1	1	5	1	1	1	1	1	3	1	1	4	3	2	2	1	1	1	1	1	328	42ヶ国・地域
	学部生	8			9		12		2		3																																		34	
	博士前期課程	61	6	7	1	7	2	3	4	1	1	1	1	2	1			1		1	1	1	1	1	3			1			1			1		1				1	1	1	1	115	
	博士後期課程	42	23	20	10	10	4	7	2	8	4	1	1	1	1	1	1		1	2	1				1	1	1		1	1	2	1	1	3		1	2	1	1						157	
	研究生／聴講生／短期訪問学生	5	3	3		2		1	2			1	1												1										3										22	

内訳

工学部／工学府	学部生	6			6		9		2		3																																		26	33ヶ国・地域
	博士前期課程	25	2			1	2				1		2	1			1			1		1	1	1	1			1					1		1				1		1	1		45	
	博士後期課程	20		1	4	5		2		5	2		1	1	1	1	1			1	1				1								1			1	2	1	1						53	
	研究生／聴講生／短期訪問学生	3	1	3				1	2			1	1																					3											15	
	小計	54	3	4	10	6	11	3	4	5	6	1	2	3	2	1	1	1	0	1	2	0	1	1	2	0	0	1	0	0	0	0	1	1	3	2	2	1	1	1	0	1	1	139	
情報工学部／情報工学府	学部生	2			3		3																																					8	12ヶ国・地域
	博士前期課程	22		6		4			1			1										1			1																			36	
	博士後期課程	6	5	14		4	2	2	2			1																					1										37	
	研究生／聴講生／短期訪問学生	1				2																			1																			4	
	小計	31	5	20	3	10	5	2	3	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	85	
生命体工学研究科	博士前期課程	14	4	1	1	2		3	3	1			1								1				1							1									1				34	22ヶ国・地域
	博士後期課程	16	18	5	6	1	2	3		3	2								1	1						1	1		1	1	2	1		2										67	
	研究生／聴講生／短期訪問学生	1	2																																											3	
	小計	31	24	6	7	3	2	6	3	4	2	0	1	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	1	1	1	0	1	1	3	1	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	104	

※研究生／聴講生は、協定校等からの特別聴講（研究）学生を含む

（2020年5月1日）

入学者状況 Application and Matriculation

入学志願者数及び入学者数

学部・類		2020年度 志願者	2020年度 入学者	2019年度 志願者	2019年度 入学者
工学部	工学1類	341	80	403	80
	工学2類	603	165	758	166
	工学3類	426	144	420	144
	工学4類	210	74	198	83
	工学5類	186	68	193	68
計		1,766	531	1,972	541
情報工学部	情工1類	669	176	813	181
	情工2類	290	112	396	113
	情工3類	288	123	297	132
計		1,247	411	1,506	426
合　計		3,013	942	3,478	967

奨学金受給状況 Scholarship

学部生

区　分	日本学生支援機構 給付	日本学生支援機構 第一種	日本学生支援機構 第二種	地方公共団体・会社等	合　計	在学生に対する%
工学部	15	521	363	45	944	41%
情報工学部	29	414	331	26	800	44%
合　計	44	935	694	71	1,744	42%

（2019年度）

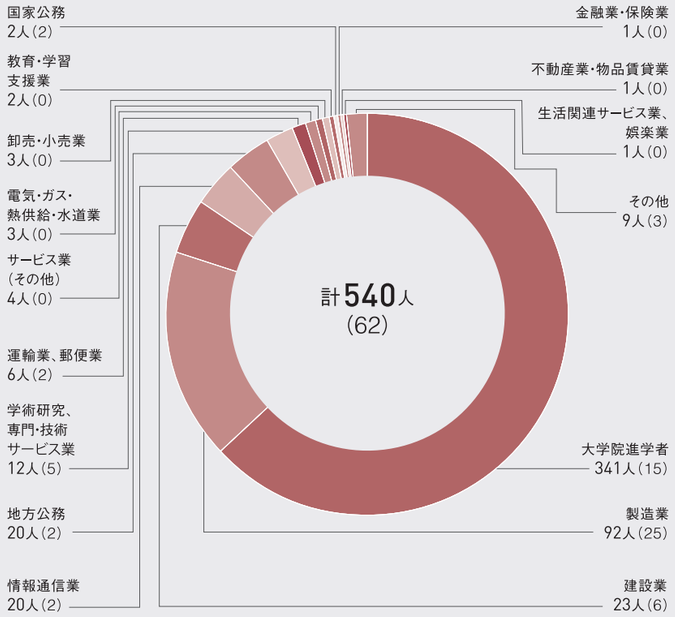
大学院生

区　分		日本学生支援機構 第一種	日本学生支援機構 第二種	日本学生支援機構 合計	地方公共団体・会社等	合　計	在学生に対する%
工学府	博士前期課程	249	16	265	13	278	49%
	博士後期課程	11	1	12	1	13	12%
情報工学府	博士前期課程	165	17	182	11	193	50%
	博士後期課程	9	0	9	2	11	19%
生命体工学研究科	博士前期課程	96	11	107	1	108	43%
	博士後期課程	26	1	27	5	32	22%
合　計		556	46	602	33	635	42%

（2019年度）

進路状況 学部 Career Placement : Undergraduate Students

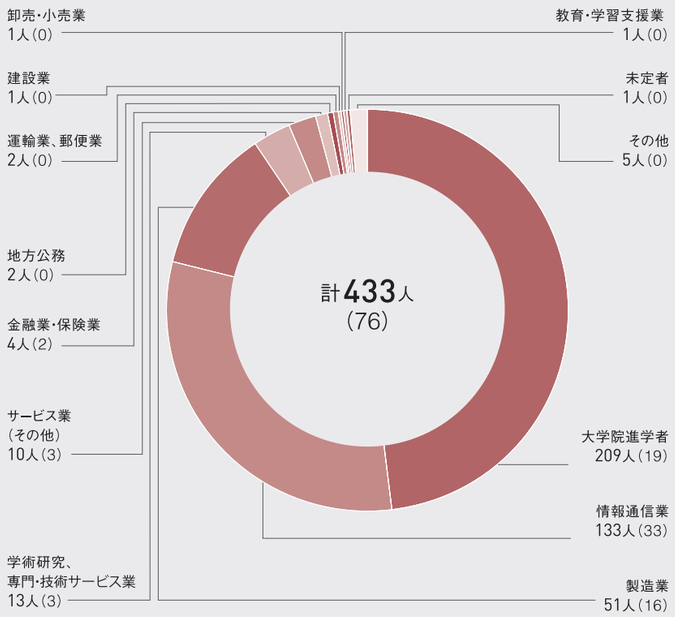
工学部



主な就職先・人数

北九州市役所	7
本田技研工業(ホンダ)	5
三井ハイテック	4
LIXIL	4
オービック	3
京セラ	3
トヨタ自動車九州	3
日本製鋼所	3
安藤・間(安藤ハザマ)	2
大林組	2
五洋建設	2
スズキ	2
スターフライヤー(SFJ)	2
ダイキン工業	2
大成建設	2
ディーピーティー	2
ニチコン	2
日本発条(ニッパツ)	2
日立造船	2
福岡市役所	2
富士ピー・エス	2
美里建設	2
三菱自動車工業	2
三菱電機	2
山口県庁	2
吉川工業	2

情報工学部



主な就職先・人数

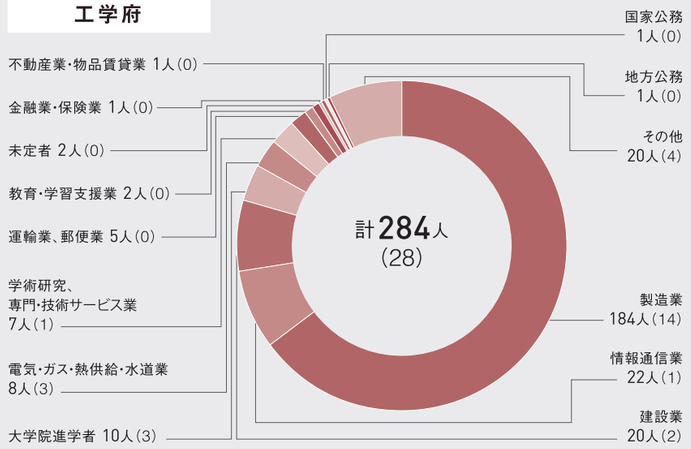
テクノス	12
NECソリューションイノベータ	6
エヌ・ティ・ティ・データ九州(NTTデータ九州)	4
九州NSソリューションズ	4
エコー電子工業	3
SCSK	3
大分キヤノン	3
OKIソフトウェア	3
シティアスコム	3
日鉄ソリューションズ	3
パナソニック	3
VSN	3
三岩エンジニアリング	3
ラック	3

※( )内は女子で内数

(2020年3月卒業生)

進路状況 大学院 Career Placement : Graduate Students

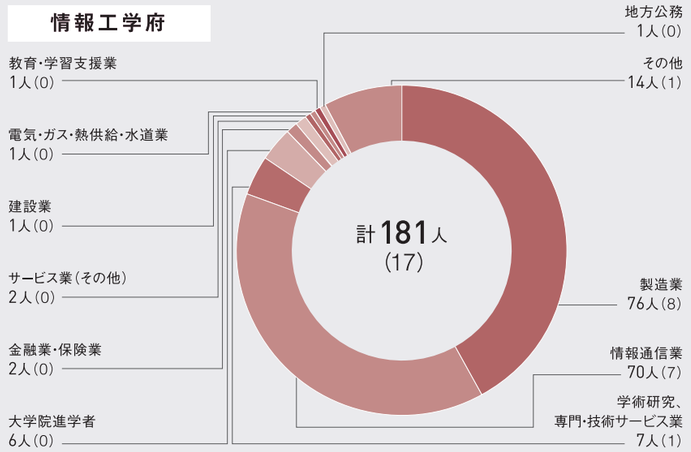
工学府



主な就職先・人数

三菱電機	9
本田技研工業(ホンダ)	8
日本製鉄	7
富士通	6
九州電力	5
JFEスチール	5
TOTO	5
日立製作所	5
三菱ケミカル	5
村田製作所	4

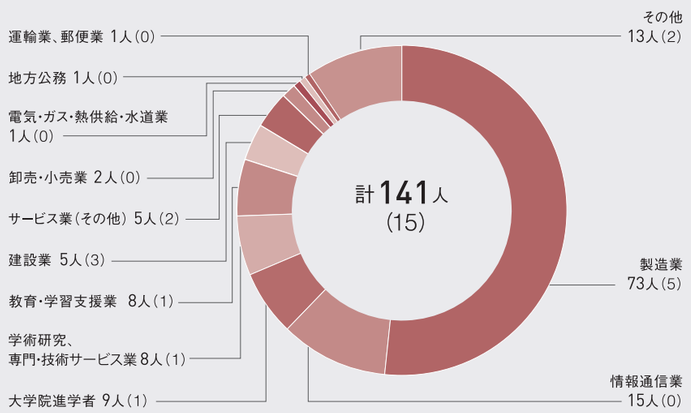
情報工学府



主な就職先・人数

日立製作所	6
ソフトバンク	4
川崎重工業	3
九州NSソリューションズ	3
小松製作所(コマツ)	3
トヨタ車体	3
日本電気(NEC)	3
本田技研工業(ホンダ)	3
三菱電機インフォメーションネットワーク	3

生命体工学研究科



主な就職先・人数

スズキ	4
三菱自動車工業	4
九州工業大学(教員・研究員・職員等)	3
ソニーLSIデザイン	3
トヨタ自動車九州	3
日亜化学工業	3

※( )内は女子で内数

(2020年3月博士前期課程・後期課程修了生)

国際交流協定校 Our Partners

計36ヶ国・地域、147機関

W ダブルディグリー協定数 13

工▶工学部　情▶情報工学部　生▶生命体工学研究科　無印▶大学間

国名	機関名	
イギリス	クランフィールド大学	
イタリア	サレント大学	
	ボルツァーノ自由大学科学技術学部	工
	トリノ大学	生
	トリノ大学医学科	工
	ローマ・ラ・サピエンツァ大学	
スイス	ポール・シェラー研究所	工
スペイン	ジャウマ１世大学	
スロバキア	コシツェ工科大学電気工学・情報工学部	生
スロベニア	リュブリャナ大学	
チェコ	オストラバ工科大学電気工学・コンピュータサイエンス学部	情 生
	プラハ化学技術大学	工
ドイツ	ブラウンシュバイク工科大学機械工学部	工
	フラウンフォーファー IAIS 研究所	生
	クラウスタール工科大学	
	シュトゥットガルト大学電気情報工学部	情
	ハノーファー大学化学工学研究所	工
	フライベルグ工科大学	
ノルウェー	サウスイーストノルウェー大学	
フランス	W ロレーヌ大学	
	国際宇宙大学	工
	W サンテティエンヌ国立高等鉱山学院	
	航空宇宙高等学院	工
	W パリ高等機械工学院	工
	ボルドー工科大学 ENSEIRB-MATMECA 大学院	生
	ポワティエ大学	
	国際情報処理科学院	
ポーランド	ニコラスコペルニクス大学物理・天体・情報学部	生
	アダム・ミツキェヴィチ大学	
ポルトガル	ポルト大学	
ロシア	サンクトペテルブルグ工科大学冶金・機械工学・交通研究所	工
	ノヴォシビルスク大学	
ギリシャ	ヘレニックメディタレニアン大学	

国名	機関名	
エジプト	マンソウラ大学	
ガーナ	オールネーションズ大学	
ナイジェリア	連邦工科大学アクラ校	
トルコ	イスタンブール工科大学航空宇宙工学部	工
	コンヤ工業大学工学・自然科学部	生
インド	インド工科大学デリー	
	SRM 大学	工
	インド工科大学バラナシ	
	インド工科大学インドル	生
	インド工科大学カーンプル	
	ドロナチャルヤ工科大学	生
	マニパル大学	
	チェンナイ工科大学	情
	カルカッタ大学	情
	デリー大学	
	アミティ大学アミティナノテクノロジー研究院	情
インドネシア	バンドン工科大学	
	北スマトラ大学医学部	生
	ディポネゴロ大学工学部	情
	ハサヌディン大学	
	ブラウィジャヤ大学コンピュータ科学部	生
	ムスリムインドネシア大学コンピュータ科学部	情
シンガポール	南洋理工大学国立教育研究院	情
タイ	タマサート大学	
	タマサート大学シリンドホーン国際工学部	工 情
	W キング・モンクット工科大学北バンコク校	
	カセサート大学	
	W キング・モンクット工科大学トンブリ校	
	W キング・モンクット工科大学ラードクラバン校	
	コンケン大学理学部	工
	ヴィディヤシリメディ工科大学	工
	スラナリー工科大学科学院	生
	チュラロンコン大学工学部	

国名	機関名	
韓国	W 昌原大学校	
	韓国交通大学校	
	釜山大学校	
	国立ハンバット大学校	
	浦項工科大学校脳科学研究所	生
	スンミョン女子大学	
	国立金烏工科大学化学材料科学工学部	情
	浦項工科大学校工学部	工
	韓国海洋大学校	
	中央大学校	
	高麗大学校科学技術大学	工
	韓京大学校工科大学	情
	世宗大学校ソフトウェア融合学部	生
台湾	W 国立台湾科技大学	
	国立成功大学	
	国立台北科技大学	
	国立陽明大学	
	国立台湾大学電気工学コンピュータ サイエンス学部	情
	国立台湾大学工学院	工 生
	国立清華大学	
	東海大学	
	国立中山大学工学部	情
	国立勤益科技大学	
中国	北京科技大学	
	W 山東大学	
	華東交通大学	
	中国農業大学	
	河南科技大学	
	W 揚州大学	
	W 西安電子科技大学（ダブルディグリー協定のみ）	
	清華大学エネルギー動力工程系	工
	東北大学	
	復旦大学脳科学研究センター	生
	大連理工大学	
	中国石油大学	
	合肥工業大学電子与応用物理学院	情
	香港科学技術大学工学部生物化学工学科	工
	青島理工大学	
	中国科学院都市環境研究所	生
	常熟理工学院	
	江蘇大学	

国名	機関名	
中国	南京郵電大学オートメーション工学部	工
	中国計量大学	
	天津工業大学	工
バングラデシュ	ブラック大学	
	インデペンデント大学	
	ラジシャヒ大学	
	ベーグム・ロキヤ大学工学部	情
フィリピン	フィリピン大学ディリマン校	
	アテネオ・デ・マニラ大学	
ベトナム	FPT 大学	
	ハノイ科学技術大学	
	ホーチミン科学大学	
	ベトナム科学技術アカデミー生物工学研究所	生
	ベトナム国立衛星センター	工
	W ホーチミン市工科大学	
	ベトナム国家ハノイ科学大学	
	ハノイ科学技術大学（ベトナムフランス大学）	
	ベトナム国家ホーチミン市情報工学大学	
マレーシア	W マレーシアプトラ大学	
	マレーシア工科大学	
	マレーシア科学大学	
	マラ工科大学	
	スルタンイドリス教育大学	生
	マラヤ大学	
	トゥンク・アブドゥル・ラーマン大学	
	ペトロナス工科大学	
	マルチメディア大学	
モンゴル	モンゴル国立大学	
オーストラリア	オーストラリア国立大学	
ニュージーランド	オークランド工科大学知識工学・知識発見研究所	工
アメリカ合衆国	クラークソン大学	
	テキサス大学エルパソ校	
	カリフォルニアポリテクニック州立大学	
	ニューヨーク市立大学シティカレッジ	
	コロラド大学ボルダー校	
	ニューヨーク市立大学ブルックリン校	
	南カリフォルニア大学ビタビアルゴリズム工学部	工
カナダ	オンタリオ工科大学	
コスタリカ	コスタリカ工科大学	工
メキシコ	メキシコ国立自治大学医学部微生物・寄生虫学科	生
	国立メキシコ工科大学	

地域別の国・地域数、機関数

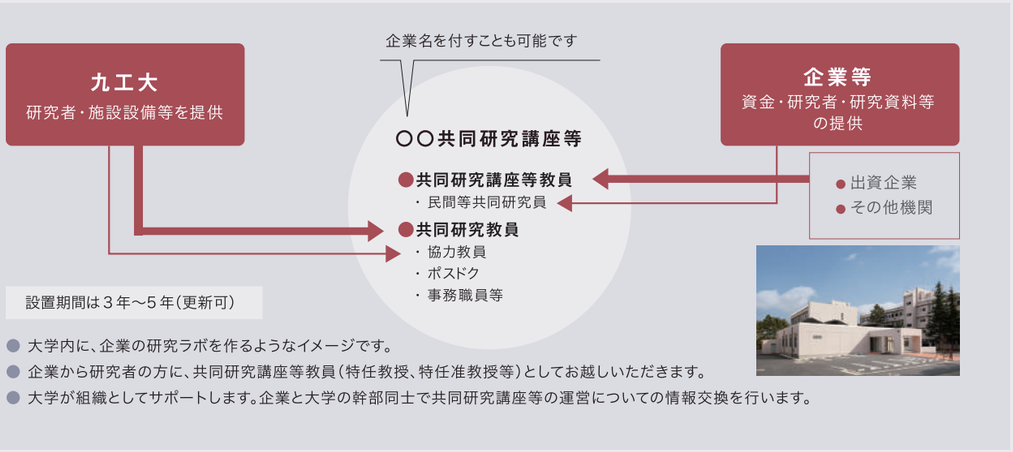
地域	国・地域名	機関数
欧州	14	33
アフリカ	3	3
中東	1	2
アジア	12	96
大洋州	2	2
北米	2	8
中南米	2	3
合計	36	147

（2020年5月1日現在）

外部資金 Funds from Outside the University

共同研究講座・共同研究部門制度

共同研究講座・共同研究部門（以下「共同研究講座等」）制度は、企業等から共同研究費として資金を提供していただき、大学内に設置する研究組織です。研究組織として置く点が大きな特徴であり、資金提供企業等から資金のほかに研究者を受け入れ、本学の教員と対等の立場で共同して研究を行い、安定した研究基盤を構築し、一定期間継続的に共同して研究を行うことにより、優れた研究成果の創出と新たな研究展開を期待し設置するものです。



設置実績

共同研究講座

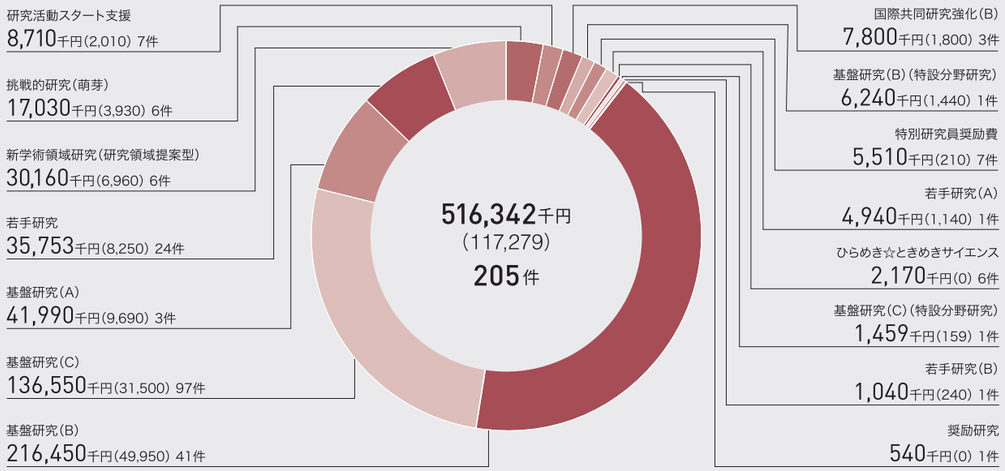
部局名	講座名称	設置期間
生命体工学研究科	SUMCO 共同研究講座	2017年７月～2020年６月
工学研究院	IoT システム実装研究講座（パナソニック共同研究講座）	2017年11月～2020年10月
情報工学研究院	ECC ウェルネス共同研究講座	2018年４月～2021年３月
工学研究院	デンソー Lean Automation 共同研究講座	2018年４月～2021年３月
生命体工学研究科	プラントライフサイクルエンジニアリング（PLE-TAKADA）講座	2018年４月～2021年３月
工学研究院	安川電機ロボット新技術開発講座	2018年８月～2021年７月
情報工学研究院	デンソー生産準備 IoT 共同研究講座	2018年10月～2021年９月

共同研究部門

受入部局	部門名称	設置期間
分子工学研究所	機能性材料　共同研究部門	2019年４月～2022年３月
分子工学研究所	新規材料分子設計 共同研究部門	2019年４月～2022年３月
オープンイノベーション推進機構（マイクロ化総合技術センター）	釜屋電機超高信頼性デバイス共同研究部門	2019年８月～2022年７月

（2020年４月現在）

科学研究費助成事業交付決定状況（2019年度）



※（　）内は間接経費で内数

共同研究実施状況

項目	件数(件)	受入金額(千円)
2017年度	266	523,609
2018年度	268	701,856
2019年度	266	859,274

※複数年契約を含む。

受託研究受入状況

項目	件数(件)	受入金額(千円)
2017年度	111	451,553
2018年度	130	487,517
2019年度	143	454,869

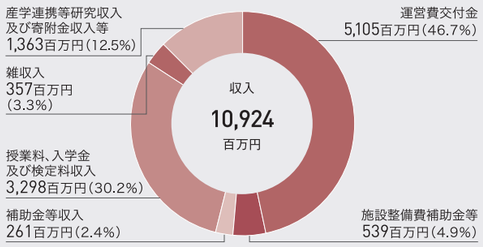
※複数年契約を含む。

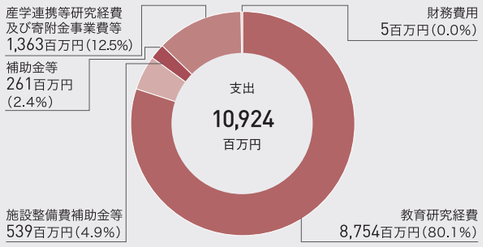
寄附金受入状況

項目	件数(件)	受入金額(千円)
2017年度	100	146,898
2018年度	113	125,161
2019年度	124	327,106

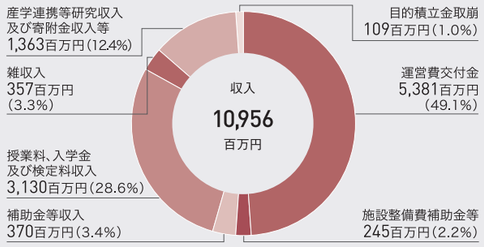
予算・決算 Budget and Accounts

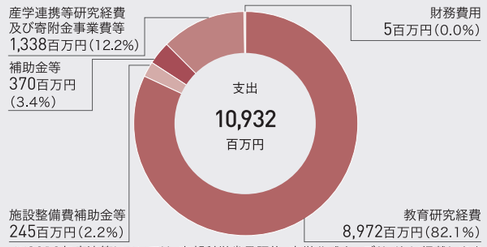
2020年度予算





2018年度決算





※2019年度決算については、文部科学省承認後、本学公式ウェブサイトに掲載します

国立大学法人
九州工業大学

総務課 広報企画係
〒804-8550 福岡県北九州市戸畑区仙水町1-1
TEL：093-884-3007

https://www.kyutech.ac.jp

九工大 検索